

資質・能力を育むための

単元研究会からの

カリキュラム・マネジメント

の推進

単元研究会が、
何故カリマネにつながる
のか？

子どもの学びを
見取る

最小の単位、
「単元」

目次

はじめに	2
第1章 育成を目指す資質・能力～明確化に向けた取り組み～	3
○「資質・能力」の位置付け	
○本校の「資質・能力」の明確化	
第2章 資質・能力を育むために	
～“単元のまとまり”から始まるカリキュラム・マネジメント～	7
○研究のテーマ及び目的	
○研究の概要及び方法（1年次）	
○研究日程（3年次計画）～じっくり、焦らず～	
第3章	
1 研究の実際～“単元のまとまり”で考えるということ	16
○単元をデザインする単元案	
○子どもの学び、学び方（まとまり）を考える単元研究会	
○外部講師活用による教員の資質・能力の向上	
2-1 事例紹介～子どもの学びを捉え、単元研究した実践事例～	24
○生活単元学習「すなあそびをしよう」小学部 遠藤砂絵教諭	
○生活単元学習「地域を知ろう」中学部 遠藤徹教諭	
○職業「現場実習に参加しよう」高等部 八巻美貴教諭	
2-2 事例紹介～単元研究ダイジェスト～	43
○8つの実践をダイジェスト版にて紹介	
○単元案の実践を積み上げ、研究を深めていった研究報告	
3 教育課程編成～次年度に向けたカリキュラム・マネジメント～	48
○教科等横断的な視点に立った資質・能力と年間指導計画	
第4章 結果・考察	54
“単元研究会”で何が変わったのか、資質・能力は？カリマネは？	
○研究の結果と考察：何が変わってきたのか	
○2年次に向けた取り組みの重点～より、質を高める～	
○本研究のゴールに向かって	
参考文献	61
編集後記	62



はじめに

本校は、昭和46年に相馬市立養護学校として創立し、今年で50周年を迎えました。この節目の年に、南相馬市鹿島区に新設された校舎に移転することと、学習指導要領が改訂されることを踏まえて、新しい土地、新しい時代、新しい校舎に見合った教育が出来るよう、一昨年度から準備を進めてきました。

本校が育成を目指す資質・能力を明確にし、軸と根拠がぶれることのない授業実践を目指して、さまざまな取り組みを進めてきました。研修部が中心となり、全職員が目の中の授業に真摯に向き合い、単元案の作成や授業研究会等の機会を活かしながら、日常的にカリキュラム・マネジメントに取り組みました。若手、ベテランが入り交じり、自由な雰囲気の中で活発にアイデアを出し合うことをとおして、授業がどんどん進化して行く様子は圧巻でした。併せて、全員で組織学を学びながら、研修部と教務部が連携して教育課程編成に取り組むなど、まさに、「専門性」と「同僚性」を活かした「学び合う教員集団による学校づくり」が実践されていたのではないかと思います。これまで御指導を賜りました先生方に、改めて御礼申し上げます。

本校の実践はまだまだ発展途上です。現在の取り組みを継続しながら、子どもたちが「学びたい学校」、先生方が「働きたい学校」として成長することを目指していきます。この研究集録をお読みいただいた先生方からも、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。また、本研究が、各校の実践のお役にたてば幸いです。

今後とも、御指導、御鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

福島県立相馬支援学校長 鈴木 龍也

第 1 章

育成を目指す資質・能力

明確化に向けた取り組み

今回の学習指導要領の目玉である「育成を目指す資質・能力」について、「生きる力」、「知・徳・体」との関係性は何か。その点を整理しながら、令和元年度に行われた本校の育成を目指す資質・能力を明確にした取り組みを紹介する。

- 「資質・能力」の位置付け
- 本校の「資質・能力」の明確化



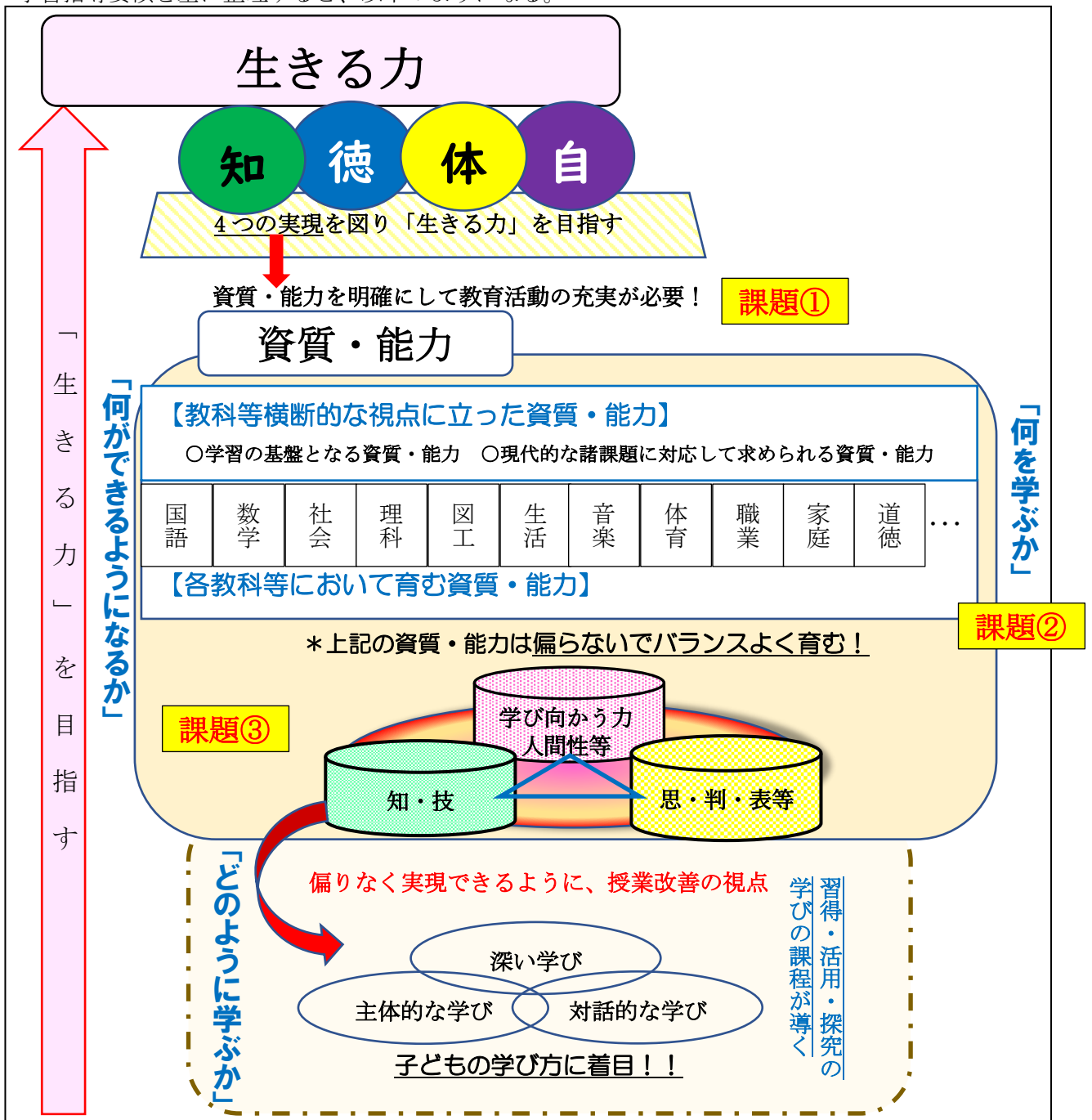
「資質・能力」の位置付け～キーワードの関連性～

学習指導要領には、「生きる力」、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、「資質・能力」、「教科等横断的な視点に立った資質・能力」、「主体的・対話的で深い学び」等の大切にすべき、数多くのキーワードが多くある。

これらのキーワードの関係性について、すぐに説明できるだろうか。

まず、全体像をつかみ、それらの関連性を踏まえることで、目の前のキーワードに踊らされることなく、学校としての課題が見え、取り組む手順が見えてくると考えた。

学習指導要領を基に整理すると、以下のようになる。



『「資質・能力」等の位置づけを示す関係図』

学習指導要領を基に、この関係性を俯瞰すると「生きる力」を目指していくために、私たちが授業実践をするにあたり、目の前の1時間1時間の授業だけを改善するような研究では、十分ではないことが考えられる。

本校の課題

3つの取り組むべき課題

課題① 本校の「何ができるようになるか（資質・能力）」を明確化する必要性

課題② 「何を学ぶか（教育課程）」を整理する必要性

課題③ 「どのように学ぶか」に着目した「日々の授業・単元」を改善する必要性

改訂された学習指導要領に対応し、“子どもの学び”の充実を図っていくためには、この3つの課題に向き合っていくことが必要となる。

本校の「資質・能力」の明確化

本校は、令和2年4月から南相馬市鹿島区内の新校舎に学びの場を移し、創立50周年を迎えた。令和元年度は、新校舎等のハード面の準備と並行して、新学習指導要領に対応した資質・能力を育む学校として、教育課程等を含めたソフト面の整備を進めてきた。

ポイント①

本校の「何ができるようになるか（資質・能力）」の明確化の必要性

新学習指導要領に対応するために、何ができるようになるか（資質・能力）を明確にし、教育課程改善へつなげる必要があることで、本校校長が平成31年4月に「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」を任命（教頭、学部主事、特別支援教育コーディネーター、教務主任、研修主任等）し、その解決に向けた方針等の提案を求める諮問を行ない、そのチームから受けた答申の方向性を受けて教育課程を改善していく取り組みを行なった。

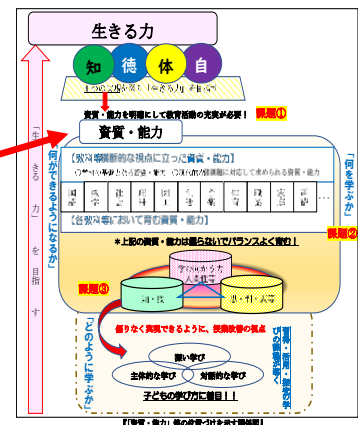
プロジェクトチームがまず、改善の根拠にして考えたことは、以下の内容である。

学習指導要領総則解説（小学部・中学部）P204

<教育目標を設定する際に踏まえる点>

- (1) 法律、学習指導要領
- (2) 教育委員会の規則、方針に従っていること
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること**
- (4) 学校や地域の実態等に即したもの
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能であること
- (6) 評価が可能な具体性を有すること

明確に



明確化へ

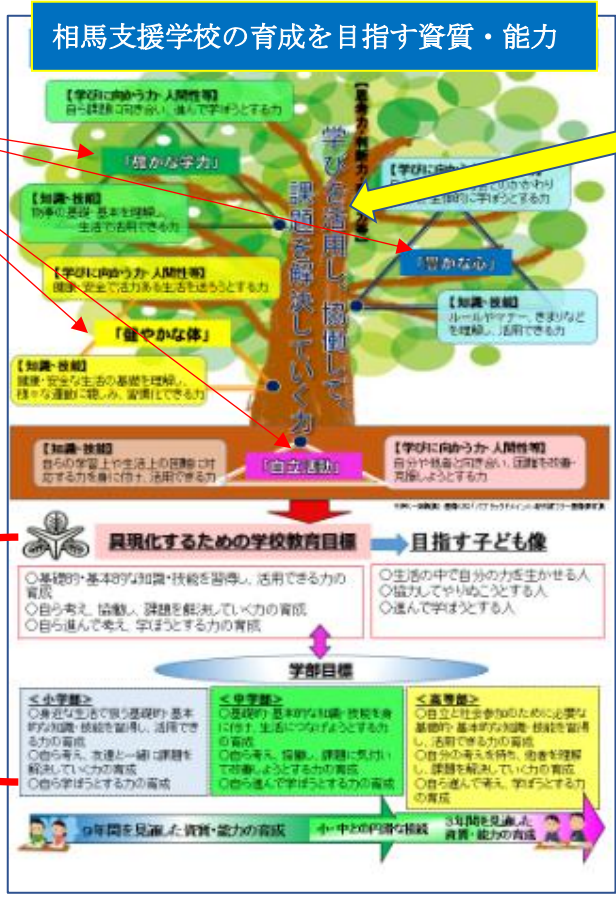
全教職員に実施したアンケートを基に

「生きる力」を目指すために「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「自立活動の指導」の実現を図ることから、平成30年度に「育てたい力のアンケート」を全教職員に実施した意見を「知・徳・体・自」

の四つの柱で整理し直して答申で示した。それをもとに、全教職員で修正等を図りながら明確にしてきた(図1)。

アンケートのキーワードより、「知・徳・体・自」について、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等で明確化

目指す子どもの姿を明確にすることで、学校教育目標、学部目標を見つめ直し、従前の教育目標から、改善に至った。



本校の特徴として、思考力・判断力・表現力等において、「学びを活用し、協働して、課題を解決していく力」を柱として考えている。



図1「本校の育成を目指す資質・能力」

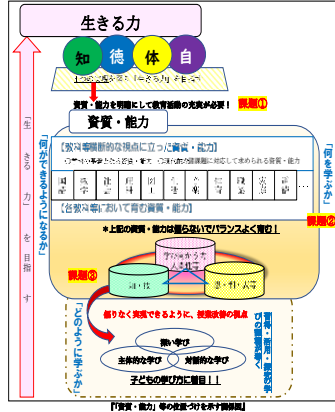
廊下等にパネルを貼り、保護者、地域の方も含めて誰もが「目指す子ども像」を共有できる学校へ



明確になった教育目標を達成するために、学校の長所、課題は何か、全教職員でSWOT分析を行い、その後の取り組みに反映。

*令和元年度の取り組みの詳細について、福島県教育委員会ホームページ「福島県教職員研究論文」にて特選をいただき、掲載されています。興味のある方は御覧ください。

明確にすることで 「何を学ぶか」を検討し、教育課程改善へ



資質・能力を具現化するための「教育目標」を達成するために、教育の内容を再度見直し、指導形態(各教科等を合わせた指導)と混同しないように、目標設定、学習評価の在り方、個別の指導計画などの改善につなげた。また、「児童生徒の調和的な発達の支援」として、個別の教育支援計画の合理的配慮の明記やキャリアガイダンスシートを用いたキャリア発達の支援等の改善を図った。

第2章

資質・能力を育むために

“単元のまとめり”から始まる

カリキュラム・マネジメント

明確にした資質・能力を育むために、どのようなアプローチをしたのか。また、教育課程に基づき組織的かつ計画的に**教育活動の質の向上**を図っていくカリキュラム・マネジメントに、どのように迫っていくとよいのか。本校の問題と目的を明確にしていく。

○研究のテーマ及び目的

○研究の概要及び方法（1年次）

○研究日程（3年次計画）～じっくり、焦らず～



研究のテーマ及び目的

【前年度までの研修の取り組みの足跡】

第一章で示したように、昨年度は、本校としての「何ができるようになるか（資質・能力）」を明確にし、その達成のために、「何を学ぶか」という大幅な教育課程の改善を行ってきた。さらに、授業実践のレベルでは、前年度の研修において、新学習指導要領に対応した指導案、学習評価等の改善、授業研究会の改善等を図り、知的障がい教育の教科における習得状況に応じた段階と内容を踏まえた授業づくり、授業研究会では、子どもの学びの姿を見取り、学びの本質を捉えた議論、主体的・対話的・深い学びの実現のための手立ての考察などの成果を上げることができた。

これまでの授業研究会は、授業者が、授業の感想をもらうだけだったり、指導助言のような雰囲気ですら授業について指摘されたりすることがあり、授業者にとって授業研究会を終えることが目的となっている場面がしばしば見られた。そこで、「授業者としての悩みに答え、明日の授業に生かす」ことをテーマにした東京都立光明学園の「授業者支援会議」を参考にして、短時間で最大の効果が出るような取り組みを目指した。ファシリテーターを中心として、複数の参加者の学びの見取りによる学習評価、授業改善の視点でのアイデアの出し合い等の改善を図り、それらを続けて行うことで、話し合いの雰囲気や授業研究会への参加者増等の変化が見られてきた。



研究テーマ

「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの推進」 (1年次)

研究の目的①

求められるカリキュラム・マネジメントの推進

学習指導要領総則解説（小学部・中学部）では、「各学校において、**教科等を目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等）**や現代的な諸課題に対応して**求められる資質・能力の育成**のためには、**教科等横断的な学習**を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた**授業改善**を、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行なうこと**が求められる。」と述べられている。これらの実現のためには、カリキュラム・マネジメントの四つの側面^{*1}があるとされ、その改善を通して、教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが求められている。

*1：カリキュラム・マネジメント4つの側面

「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼・小・中）」では、次のように示している。

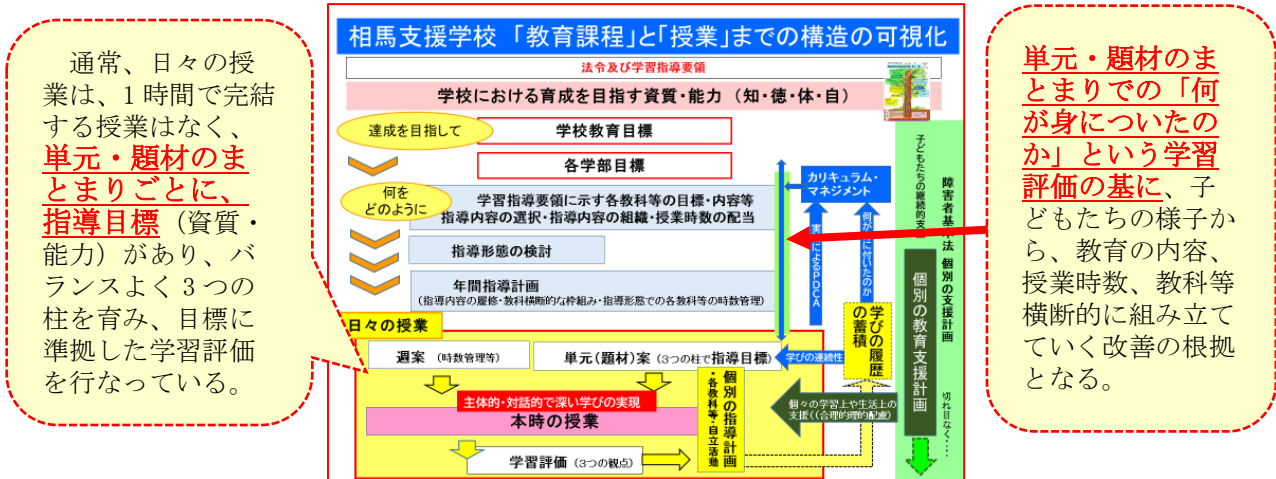
- (ア) 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- (イ) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- (ウ) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- (エ) 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと

研究の目的②

教育課程の可視化から見えるキーポイント “単元のまとまり”

昨年度の研修で成果を上げる一方、目標となる資質・能力を達成するためには、本時だけでなく、単元全体の構想に課題があることが見えてきた。また、関連して、他の教科とのつながりを意識し活用の幅を広げていく必要性と、それに伴い、年間指導計画を見直し、分かりやすい単元配列表があるといいのではないかという意見なども挙げられた。つまり、授業実践だけでなく、カリキュラム・マネジメントそのものが課題であることが示されていた。

ここで、本校の教育課程から授業までの構造を見ることで、全体像から、どこに働きかければ効果的かつ有効かを考えた（図2）。



通常、日々の授業は、1時間で完結する授業はなく、**単元・題材のまとまりごとに、指導目標**（資質・能力）があり、バランスよく3つの柱を育み、目標に準拠した学習評価を行なっている。

単元・題材のまとまりでの「何が身についたのか」という学習評価の基に、子どもたちの様子から、教育の内容、授業時数、教科等横断的に組み立てていく改善の根拠となる。

図2「相馬支援学校「教育課程」から「授業」までの構造の可視化」

このように、教科別の指導や各教科等を合わせた指導においても、私たちは、**単元や題材***2を軸に授業を構想し、学習評価をする必要がある。そこでの実践から目標に準拠した学習評価を行ないながら、「何が身についたのか」を明確にし、さらに「教育活動の質」を高めるために、確かな子どもの学びからカリキュラム・マネジメントが展開できると考える。

*2：単元と題材について、考え方の違いは明確である。本研究では、子どもの学びのまとまりとして捉え、以下「単元」と表記している。

育成すべき資質・能力に向けて～研究のための研究ではない～

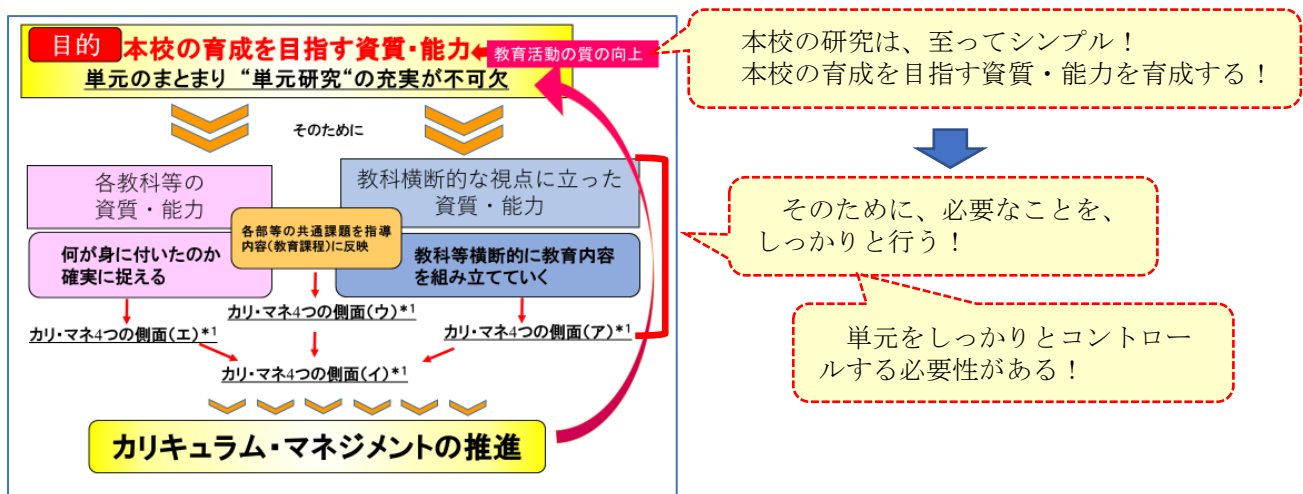


図3「本校の育成を目指す資質・能力のために」

これまでの単元との向き合い方と課題

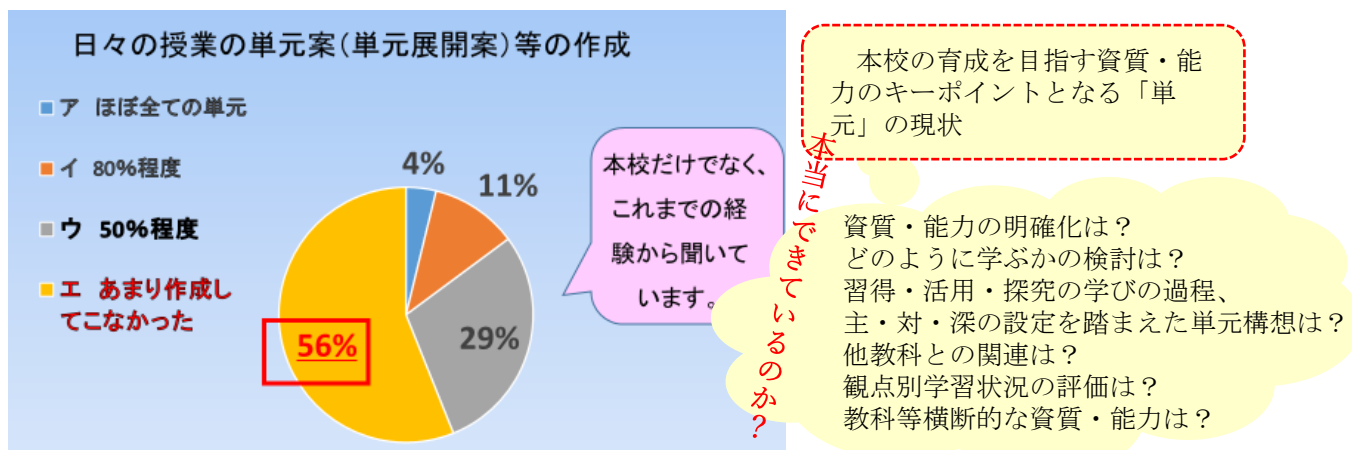
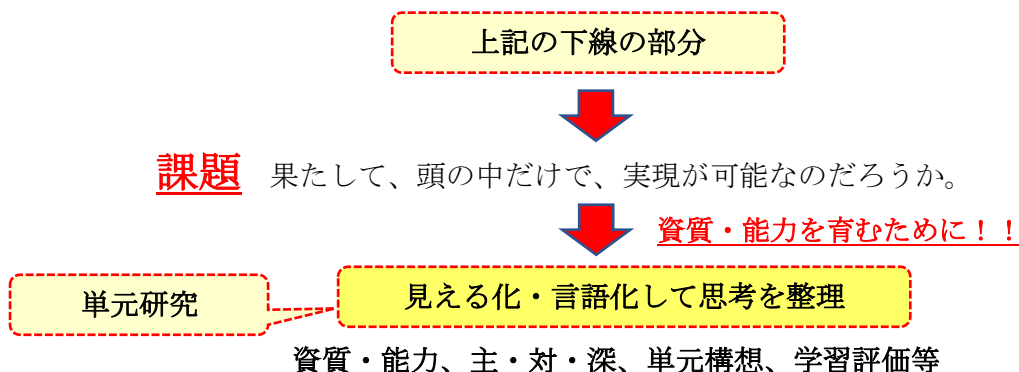


図4 「研修前の校内アンケート」より

5月に行なったアンケートから、現状と課題の分析を行なった。図4は、アンケートにおける日々の単元をどれだけ意識してコントロールしているかを分析する項目である。「日々の授業の単元案(単元展開案)等の作成」を行っているかについて、「56%があまり作成してこなかった。」との回答があった。

小学校等での各教科等の指導に関しては、教科書を活用することで、資質・能力が育まれるように単元の構想がなされている。授業者にかかわらずに一定程度の基準が整っている。しかし、知的障がい教育においては、指導内容に即して、単元ごとに整理されている教科書等が少なく、授業者が構築していくことが多い。このような状況の中で、「研究の目的②」で示したように、単元を進めていく時に、様々な留意点として、資質・能力の明確化、その実現に向けて、子ども達がどのように学ぶか、習得・活用・探究の学びの過程を考慮し、主体的・対話的で深い学びを実現していく単元構想、観点別学習状況の評価等を押さえ、授業改善を行いながら、単元終了後に「何が身に付いたのか」の学習評価をしていかななくてはならない。また、これらは、学習指導要領各教科等解説の中でも、同様の内容が述べられ、教科別の指導はもちろん、各教科等を合わせた指導等においても、各教科の資質・能力を明確にし、それらの目標に準拠した学習評価が必要であることを述べている。

これまで、初任者研修、経験者研修、校内研修等で学習指導案等を作成し、詳細な内容を検討しながら取り組んできた経緯がある。その授業研究会では「目標を明確にしていくことの大切さが分かった。」
 「評価の観点を具体的にしていくことが重要であることが分かった。」などの感想等があったものの、図4の結果から、実際においては、授業研究会の次の単元等からは、授業者の「頭の中」で3つの資質・能力を意識した指導を構想し、観点別に学習状況の評価を行ってきた現状がある。



研究の目的③

単元研究会が何故、カリキュラム・マネジメントにつながるのか

資質・能力を育んでいくためには、単元のまとめり、単元を研究していくことが不可欠である。

では、それがなぜ、カリキュラム・マネジメントの推進にもつながるのか？その関係性を以下のように整理した。

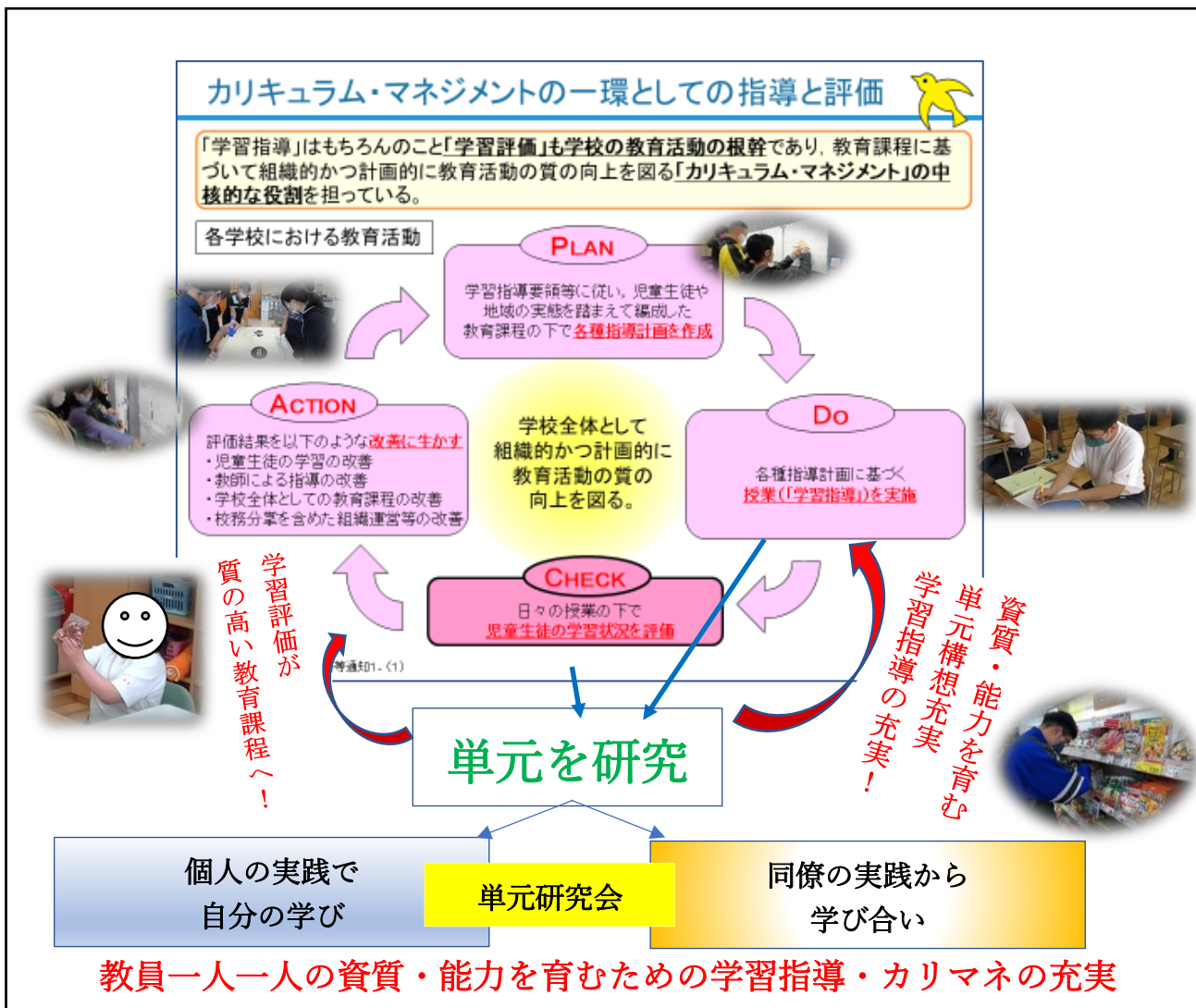


図5 「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」

図5は、カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価が整理された図である。本校では、さらに、このサイクルにおけるDo、Checkにおいて、単元研究に取り組むことで、学習指導の充実、学習評価から質の高い教育活動を目指した教育課程の改善につながると考えた。

以上の理由から、「資質・能力を育むための単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの推進」を研修テーマとして取り組んでいくことにした。

研究の概要及び方法（1年次）

以下の内容を研究し、カリキュラム・マネジメントの推進を図っていく。

【単元研究会を通して】

まずは、ここ！

- ①単元のまとまりで資質・能力を育むための単元構想及び学習評価の充実のための単元研究の構築・単元案の改善 **（1年次）**
- ②教科横断的な視点で指導内容を組み立てていくための年間指導計画の見直し・改善
- ③教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図るための授業実践の充実
- ④教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの充実

単元研究会から、派生していく

グループ単元研究会

自分自身の単元と向き合い、思考する時間

「教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践する」ことをコンセプトに、研修日を活用しながら **単元案** を作成した。各学部の研修グループにおいて、それぞれが作成した単元案を掲示してアイデアを出し合い、学びを深める。

日々の業務でもできるように！



単元案

特別な用意をしない。その時間で、考える。



自分自身で、担当間で、単元案を軸に研究できます。

日々の忙しさの中で、自分の単元を考え、検討する時間を確保

シンプルかつ指導要領の内容を押さえる思考ツールとしての“単元案”の開発

一つの授業を話し合う単元研究会

教員同士で学び合い、単元という視点で深める時間

フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱ等で行われる研究授業をもとに、「教員同士が学び合い、本時の授業力・単元構想力を高める」ことをコンセプトに、以下の流れで実施した。

- ①授業者自評（2分）
- ②授業での学びの姿を見取る（VTR8分）…★**学びの事実を捉える力**
- ③学習評価及び授業改善のためのアイデア（12分）……★**指導と評価**
- ④単元構想、他教科との関連（10分）……★**単元の構成力**
- ⑤指導助言（10分）

子どもの学びを見取り、単元でどう育むのかを研究する！

➡ そのためには、会を進めていく、チーム力を引き出す人材の育成も鍵！！

ファシリテーターとは?

中立的な立場でチームのプロセスを管理する。チームワークを引き出し、そのチームの成果が最大となるように支援する。



自由な雰囲気で見えやすい状況づくりとして、**ファシリテーター**を中心に立ったまま話し合いを進めるようにしました。



ファシリテーションを行うにあたって、自主研修会や福島県のOJL研究の第一人者である小野寺哲夫先生からの講義など、組織学を学ぶ機会を確保した。

組織学を学ぶことで、組織内の活性化が図られ、様々な教育課題に向き合うリーダーの育成ができる。

研究日程（3年次計画）～じっくり、焦らず～

この取り組みを進める際に、考えていく視点として大切なのは、資質・能力を育むために「単元のまとまりをサポート」する視点と「教科等間のつながりをサポート」する視点である。それらが実施される中で、年間指導計画の見直しや教科等横断的な視点に立った資質・能力の取り組みにつながり、それらの取り組みから、カリキュラム・マネジメントの目指す「教育活動の質の向上」が図られ、本校の育成を目指す資質・能力が育まれる。

これらの取り組みは、1年次に全て行うのではなく、焦らず、じっくりと“単元研究会”を軸に、「単元のまとまり」「教科等間のつながり」の研究を実施しながら、二年次、三年次へと取り組みを進めていく（図6）。

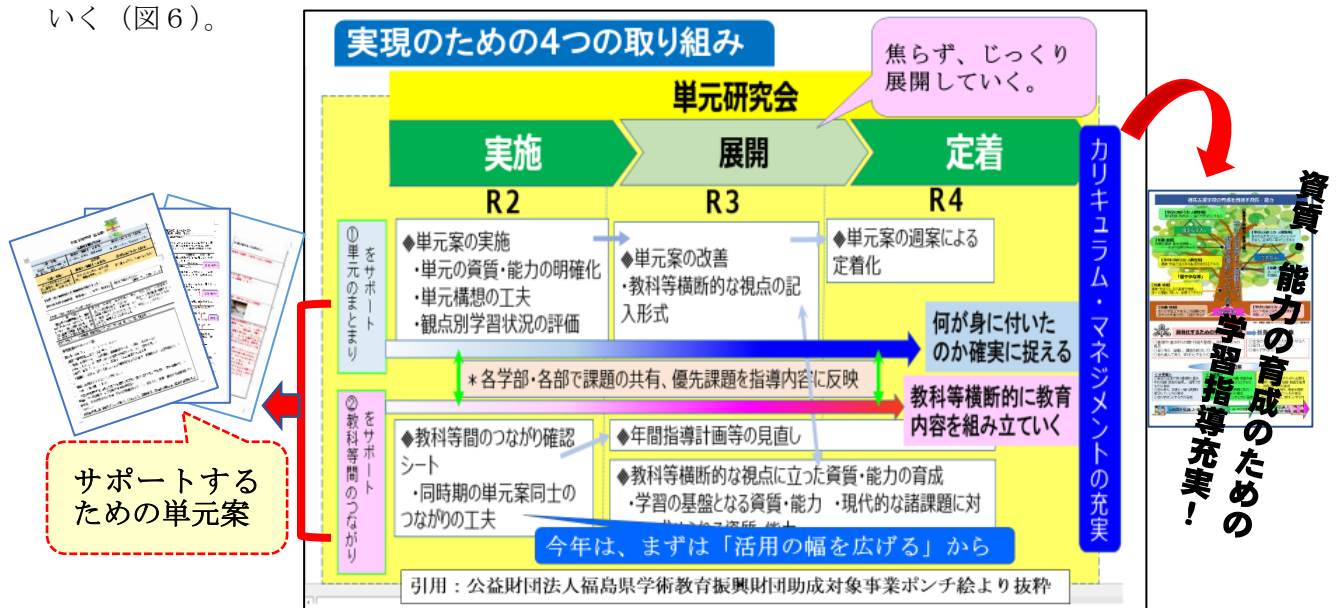


図6 「本研究の3年次計画」

令和2年度 研究計画 月別の予定

月	日	内容	月	日	内容
4	2 2	校内研修全体協議会	1 0	2 1	グループ単元研究会④
5	1 3	グループ単元研究会①	1 1	1 3	第2回校内研修全体研修会 講演会「単元研究会の検証及びカリキュラム・マネジメントの推進に向けて」 講師：田中裕一(前文部科学省特別支援教育調査官)
6	3	グループ単元研究会②	1 2	1 6	グループ単元研究会⑤
6	2 4	学習評価の時間(自主)	1	1 3	グループ単元研究会⑥
7	7	特別支援教育センター 実践協力校訪問(研修部会)	1	1 5	ミドルリーダー研修会・・・「うまくいくチームのコツとは？企業で学んでいる組織学(OJL)を学ぶ～自ら考え、動く組織・チームを創るために～」講師：小野寺哲夫准教授(東京保健医療専門職大学)
7	1 5	第1回校内全体研修会(全体単元研究会①)	2	上旬	研究集録発注
7	2 7	学習評価の時間(自主)	2	2 5	校内全体報告会
8	2 0	自主研修会 「S-M 社会生活能力検査」 「ファシリテーターとは～OJLを展開し学習する組織を作ろう～」	3		*次年度に向けて
9	2	グループ単元研究会③	*この他、経験者研修Ⅰ・Ⅱ、フォローアップ研修の研究授業については、提供授業をもとに、単元研究会を行っている。		
	2 3	学習評価の時間(自主)			

研究グループ 他教科との関連を考えることもできるようなグループ

小学部	A	1-1、2・3-1、4-1 1・3・5-3	○根本麻美、遠藤砂絵、阿部安代、添田真弓、鈴木奈緒 長谷川裕樹、秋山由依子、菊池敬 (8名)
	B	5-1、5-2、 6-1、6-2	○立石菜由子、青木梨紗、佐藤千愛美、堀内洋子、加藤良一 橋本玲、大和田布佐子 (7名)
中学部	A	1-1、2-1、2-2	○荒井郁絵、藤田泰人、遠藤徹、渡邊美穂、志賀潮 佐々木玲奈、濱須直文 (7名)
	B	3-1、3-2、3-3	○川俣つぐみ、緑上和幸、村上まゆみ、太田賢孝、岡部純一 (5名)
高等部	A	1-1、1-2	○菅原直子、久米本真央、安島孔史郎、菊田源、佐久間美帆 和田拓也、田中恵美子、引地純一 (8名)
	B	2-1、2-2、2-3	○室井郷司、鈴木彩香、濱尾康史、八巻美貴、伊藤真吾 佐々木康彦、辻明典、大谷充浩、庄司智子 (9名)
	C	3-1、3-2、3-3	○飯田里佳子、勝倉康平、樋口祐香、藤田俊之、高橋明日香 穴戸英樹、志賀美音、富村和哉 (8名)
	D	1-3、2・3-4、3-5	○岡千愛、大関克也、馬目昭典、富山淳史、川原有希 小林みちる、鈴木新太郎 (7名)

フォローアップ、経験者研修ⅠⅡ 研究授業・単元研究会日程一覧

月	予定日(校時)	授業者氏名	単元研究会 予定実施日	学びの 記録者	ビデオ 撮影者	ファシリ テーター
7月	3日(金)3校時	遠藤砂絵教諭	7月10日(金)	岡	阿部	徹、和田
7月	10日(金)5校時	岡千愛教諭		砂絵	/	
	15日(水)2校時	橋本玲教諭	7月15日(水) (校内全体研修)	青木		
9月	8日(火)3校時	岡千愛教諭	9月9日(水)	砂絵	徹	徹、和田
	2日(水)4校時	遠藤砂絵教諭		岡	八巻	村上、八巻
	25日(金)3校時	遠藤徹教諭	10月1日(木)	和田	村上	砂絵、村上
	30日(水)2校時	和田拓也教諭		徹	八巻	岡、八巻
10月	16日(金)3校時	八巻美貴教諭	10月16日(金)	村上	砂絵	砂絵、徹
11月	13日(金)3校時	青木梨紗教諭	11月13日(金) (校内全体研修)	鈴木	橋本	鈴木、橋本 (記録:太田)
	18日(水)2校時	鈴木奈緒教諭	12月2日(水)	太田	青木	太田、青木 (記録:橋本)
	26日(木)3校時	岡千愛教諭		砂絵	徹	砂絵、村上
12月	2日(水)4校時	村上まゆみ教諭	12月7日(月)	八巻	岡	岡、和田
	3日(木)3校時	太田賢孝教諭		橋本	鈴木	橋本、鈴木 (記録:青木)
1月	19日(火)4校時	遠藤砂絵教諭	1月26日(火)	岡	和田	岡、徹

子どもの学びを見取る

おもちゃを埋めているTをちらっと見る。
Tより「マグロ埋めたよ! マグロ探して!」
⇒①「やっとしてすぐに立つ。お玉でTがおもちゃを埋めていたあたりを探し始める。安代Tの近くに移動。安代先生の赤いフツツを借りる。
Tより「さるの近くだよ。」のヒントに、②は植木鉢を見る。土から少し出ているところを掘り始める。⇒マグロ見つける。
Tから「Rくんに見つけてもらおう。」の提案に応じる。
Tより「どこに埋める?」⇒近くの土を掘り始める。穴にマグロを入れて土をかける。
T「少し出しておいたら?」③「大丈夫!」
T「R君に言ってきな。」④もじもじ。Tと一緒に「マグロどこにある?」
⑤Rが探し始めると、自分でおもちゃ箱からおもちゃをとって、埋め始める。⇒Rがマグロを見つけたことを知らせても、見ずに埋め続ける。
⑥バケツに並べてある石を入れ始める。山から棒を見つけて使う。棒を折ってトンゴのように使い始める。棒で石をつまんでバケツに入れる。

子どもの学びから、何を学んだのか、学習評価

子どもがどのように学んでいるのか?

対象の子どもを決めて、その子の学びを記録します。単元研究会にて、ビデオでの見取り以外に、この記録を参考に学習評価をします。
授業者だけでなく、参観者の学びを見取る力が向上し、子ども達の観点別の学習状況を評価し、指導と評価の一体化を図る力につながります。



第3章

1 研究の実際

“単元のまとめり”で考えるということ

単元研究会からつながる…

単元案とは何か、単元研究会とは何か、その取り組みの実際を紹介する。実践事例等に関しては、第3章2事例紹介を参考にさせていただきたい。また、外部講師活用等の取り組みも合わせて紹介する。

○単元をデザインする単元案

○子どもの学び、学び方（まとめり）を考える単元研究会

○外部講師活用による教員の資質・能力の向上



単元をデザインする単元案

日々の授業・単元を考えていく際に、学習指導要領総則解説や学習指導要領各教科解説には、必要な基準性として、以下の記載がある。

- ① 本校の育みたい資質・能力から、教科等の資質・能力へのつながり
- ② 単元における育む資質・能力の明確化
*各教科等を合わせた指導においても同様に、その単元における各教科等で育む資質・能力を明確にする必要がある。
- ③ 単元における評価規準（いつ、どの資質・能力を育てていくのか。）
- ④ 授業改善の視点（主体的・対話的で深い学びの単元構想における意図的な設定場面）
- ⑤ 子どもたちの学びの過程（習得、活用、探求）をデザイン
*習得、活用、探求の学びの過程の中で、“深い学び”へと導くとある。
- ⑥ 単元間のつながり（教科内、教科等間）
*「活用の幅を広げる視点」を単元構想の視野に入れ、他教科等との教科等横断的な視点で教育内容との効果的な組み合わせを考えていく必要がある。
- ⑦ 「何が身についたのか」観点別学習状況の評価と授業改善
*学習評価から、子どもの学びを見取り、指導と評価の一体化を図る。



考えなきやいけないことが結構ある・・・

日々の単元・授業において、子ども達の学びを踏まえながら、単元を漠然とした展開ではなく、見える化、言語化して思考を整理しながら、単元のまとまりを意図的にコントロールしていかなくてはならない。

日々、実践できる形へ シンプルかつ深く押さえることができるツール“単元案”

上記の①～⑦の項目を毎単元、詳細に書いていくことは、日々の多忙な業務の中での実施は難しい。しかしながら、頭の中だけの整理では単元のまとまりで育む資質・能力（指導目標）が不明確になり、従来と変わらない状況になる。

研修部では、『日々の業務の中で、教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践できる「単元案」』をコンセプトに開発に取り組んだ。研修部内の開発チームが、当初A型～F型までの試作案について、必要な基準性を満たし、シンプルかつ深く考えることができると共に、極力スリム化を目指し、日々の実践で活用できる単元案として協議し、提案した様式が以下のものである。

資質・能力の明確化

②対応

各教科等を合わせた指導においても、各教科の単元における資質・能力の明確化

詳しい例は、事例を参考にしてください。

①対応

学校教育目標、学部目標の見える化。常に意識して、同じ方向を目指し、単元の資質・能力とのつながりを確認できる。

つながり

単元構想メモ欄を設定し、自由に記述。教員によって、使い方は様々。発想を広げる部分。

アイデア

「単元案①～資質・能力、単元構想メモ～」

③対応

各教科等を合わせた指導においても、本時の指導は、どの教科のどの力を育むのか、評価規準を設定

いつ？何を？評価規準

⑤対応

習得・活用・探究を意識した子どもの学びをイメージした単元構想

学びの過程

④対応

主・対・深の設定場面を想定し、子どもが具体的にどのように学ぶかイメージ！

主・対・深

自分で単元構想を深められる！
思考を深めるチェックがあり、

⑥対応

他教科で、どんな単元を指導しているのか明記することで、教科間でのつながりを意識し、関連を図る機会を設定

他教科等の関連

「単元案②～単元構想～」

単元の授業改善



教育課程

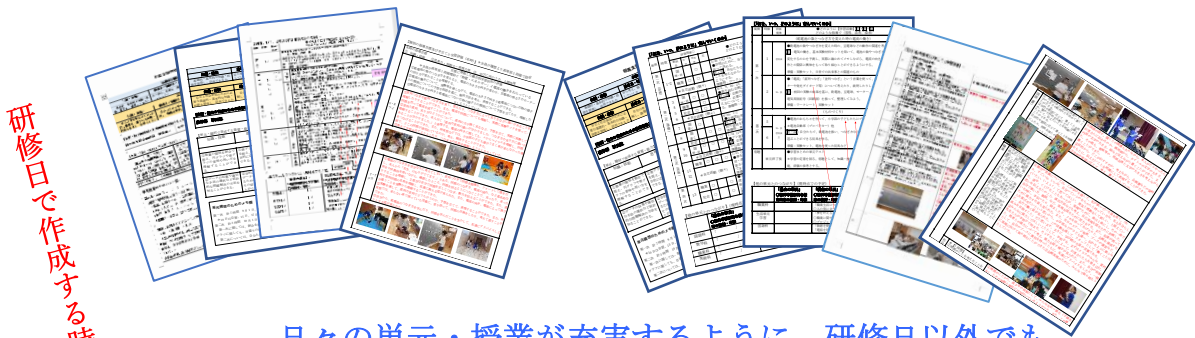
⑦対応

学習評価（子どもの学びの姿）から、授業改善や教育課程等の改善にもつながる。

⑦対応

観点別学習状況の評価を行うことで、子どもの学びの状況が分かり、授業改善に生かせる。また、学習終了後の学習評価（子どもの姿）は、各教科の段階における学びの習得状況の根拠となり、学びの履歴につながる。

「単元案③～学習評価～」



研修日で作成する時間を確保！

学習評価の時間で、学びの状況を確認

日々の単元・授業が充実するように、研修日以外でも

単元案の作成を行う先生が増えてきている。

確かな実践の積み重ねが、カリマネのアイディアへつながっている！

学びが変わっていくことや資質・能力が育まれていくことを実感しているからこそその感想である。また、日常的に単元案での単元構想に取り組む先生方の資質向上が顕著に見られ、平成28年中教審答申で示している「教員の資質向上」のためには、「単元のまとまりを考える力をつけていくことで資質向上が図られる」という部分において、立証できたのではないかと感じる。単元研究会にて、学習指導案ではなく、日々の単元案を使用することで、他の教員についても「自分の授業をよくしたい」と、日常的に単元案により単元を構想して学習する組織風土が生まれてきており、特別な研修から、持続可能な研修として、各教員が単元研究のサイクルを回していった。

各種様式に連動する単元案 日々の授業の取り組みがそのまま各種様式へ～時短！～

日々の単元案の取り組みが、「個別の指導計画」と連動している。これまでの学習指導案等が授業研究会でのみ使用する指導案であったことに比べ、単元案は、児童生徒一人一人の段階に基づいて、指導目標と学習評価が行われることから、そのまま個別の指導計画とも連動していることになる。実際に単元案で学習評価まで取り組んでいる先生方からは、「個別の指導計画の学習評価の時には、単元案からすぐに記載をすることができた」「すぐに、終わる！」など、その有効性の声が届いている。

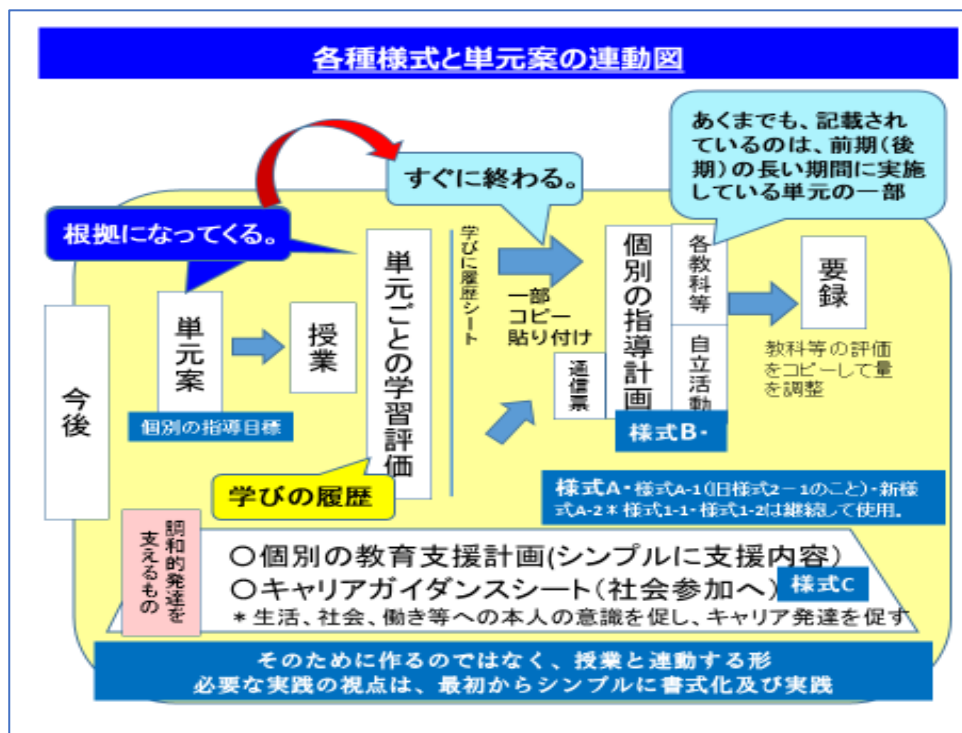


図7 「各種様式と単元案の連動図」

通知表等、全てと連動！
個別の指導計画の評価時期、



しっかりとやっている人は、質も高く、
時短も図ることができる！！

→意味ある研修・研究へ

子どもの学び、学び方（まとまり）を見つめる単元研究会

基本的に、第2章「研究の概要及び方法」で示したように2つの種類での単元研究会を行なってきた。個人の学びと同僚性における学び合いである。

自分の単元に向き合う時間

研修時間は、自分の日々の単元に向き合う単元研究会

「教員一人一人が自分の授業を考え、日々実践する」ことをコンセプトに、グループ研修日には、毎回10分程度、単元構想におけるポイント等のプチ研修を全体で行なった後、30分程度、グループに分かれ、自分の学級や受け持つ授業について、単元案等を作成するなど単元構想を考え、言語化する時間を確保した。主に以下のような視点で単元を押さえ、考えるようにした。

単元研究会（グループ研修）の進め方

ステップ1

30分

◎単元案の作成・見直し
 ＊これから取り組む単元（すでに取り組んでいる単元）の単元のまとまりを研究する。

○自分が指導している教科等について、資質・能力が育まれるように、単元における明確化、単元の構成など、単元案に書き込む（直にデータへの打ち込み可能）。
 ＊基本は、自分が教えている教科等ですが、場合によっては、学級のT・T間で生単等話し合う時間にしてもよい。また、学部所属等の先生方で、T1ではない場合においては、T1の先生と一緒に見直し・検討を図ったり、自分の校務分掌上で教育課程との関連を図ったりなど、自分にできる「教育活動の質」の向上に取り組んでください。

単元（題材）等の5つのポイント

- ① 各教科の資質・能力(目標)が明確か
- ② 個人の目標は明確か(どの段階で)
- ③ いつ、どこで、何を学ぶのか(評価規準)
 ＊ 指導と評価の一体化がなされているか
- ④ 子どもが学びやすい単元になっているか
 ＊ 「習得、活用、探求」の展開があるか
 ＊ 「主・対・深」の場の設定を考えたか
- ⑤ 活用の幅を広げる他の単元とのつながりがあるか。

子どもの学びを考え

単元案作成を通せば、このポイントは、必ず考えるようになり、まず自分自身で、T・T間で研究できます。

単元案で示している単元ごとの目標の明確化、学習評価までの流れは、研究授業のためにあるのではなく、指導要領上示されている「基本」です。それだけでなく、単元案で全体のイメージをしていると迷わず授業ができ、教材準備等効率的にできます。

ステップ2

15分

おわり

説明後、各メンバーでの作業して、こっから集合でもOK！

○グループ内で、その時間に作成した単元案について、掲示して学び合い、上記のポイント（特に④、⑤の視点）で、アイデアを出し合う。

終わったシートを研修部でコピーさせていただきます。

時間を確保……
 じつじつ自分の授業・単元に向き合う
 日々、たじろから「学び」

子どもの学びを
 刺激し合い、
 グループに共有

感想より

- 研修の時間を通して、単元案を作成していくスケジュールは、個人的にとっても助かった。（他業務がある中で行うにあたり、負担感を感じにくかった）
- 「研究のために」「研修のために」等を目的とした研修の時間ではなく、日々の授業のための時間として設定されているので、とても貴重な時間となっている。



「研修のために」「研究のために」……自分のためにも……

これまで、研修日のイメージは、研修日のために事前に準備するという形式が多かったかもしれない。昨年度のSWOT分析により、日々の様々な業務に追われ、授業を思考する時間の確保が課題として挙げられていたことから、今回の研修は、特別な準備をしないで、単元案を軸に自分の授業に向き合う時間を確保することで、研修に対するイメージの変化につながったと感じる。また、この単元案の作成、実践、学習評価のサイクルの中で、子どもの学びの成長（資質・能力の育成）や、自分の授業に変化を感じた先生は、自ら研修日以外にも取り組み、まさに持続可能な研修として、学校全体の資質・能力の育成への強力な後押しになっている。

学び合う単元研究会 研究授業をもとに、教員同士の学び合い、高め合い

フォローアップ研修や経験者研修Ⅰ・Ⅱにおける研究授業において取り組む事後研究会のことである。この単元研究会への参加については任意であり、学びたい教員が参加し、途中の出入りもOKとし、自由な雰囲気で行なうことを大切にしている。

以下のような形で行うことで、中央教育審議会答申（H28.12）で指摘していた「授業研究会が一時間、一時間という狭い範囲に留まっている」という問題点にも向き合いながら、単元のまとまりを意識し構想できる教員の資質向上を目指している。

- ①授業者自評（2分）
- ②授業での学びの姿を見取る（VTR 8分）…★学びの事実を捉える力
- ③学習評価及び授業改善（12分）……★指導と評価の一体化
- ④単元構想、他教科との関連（10分）……★単元の構成力
- ⑤指導助言（10分）



授業者だけでなく、
参観者も授業力アップ!

単元研究会 (事後研究会)

令和2年9月9日 (水)
場所：研修室2会議室

【日程】
 第一セッション：開会 (18:15～18:50)
 第二セッション：閉会 (18:55～19:30)
 開会者：校長先生 研修先生 (18:30～18:40)

【単元研究会 (事後研究会) のコンセプト】
 本時の授業力 単元全体の構成力・授業力
 広い視野で、“既成”を捉え、質実・能力を育成する教員の質実・能力の向上

フォローアップミーティング：開会 (研修室2)
 1. 開会挨拶 (5分)
 ※ 研修室2前にしての今回の授業に絞った振り返り

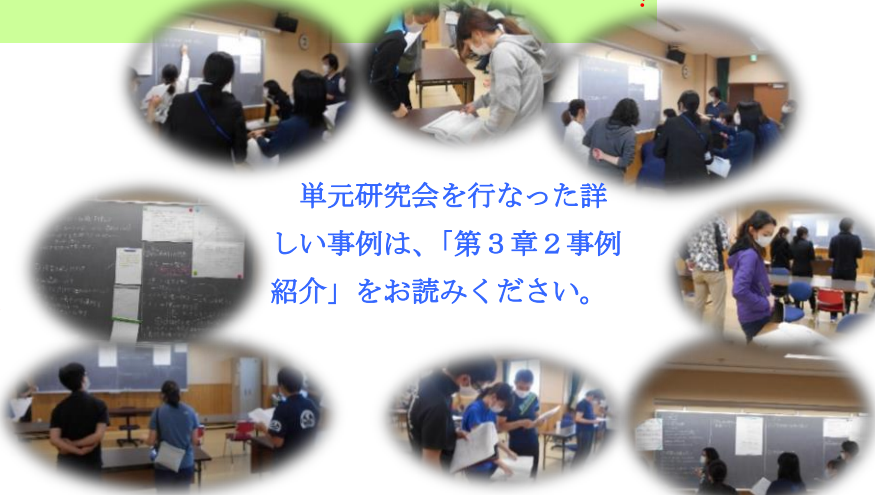
2. 授業での学びの姿を見取る (VTR) (8分)
 ※ 目標に対して子どもがどのように学び、授業実践態度を捉め、グループごとに学習・技能・応用力・理解力・表現力などの本時の観測の目標で挙げられている内容を、子どもの様子から、その事実を見取る。
 ※ 授業実践を振り返りながら、その事実を捉える。

3. 学習評価及び授業改善 (生徒の・授業の「質」を捉えるための) プレイントークミーティングでのアイデアの出し合い (12分)
 ※ 目標に対して、どのように学習とらえ目標 (質実・能力) が実現できたか、自分のアイデアを話し合う。

4. 授業の振り返り、他教科との関連についてプレイントークミーティングでのアイデアの出し合い (10分)
 ※ 単元のまとまりで、授業の振り返り、他教科との質実・能力の向上を学ぶ。

5. 閉会挨拶 (5分) ※最後は、教員、教員とめて
 ※ 感謝より

「教員同士が学び合い、
本時の授業力・単元構想力の
向上！」がコンセプト



単元研究会を行なった詳しい事例は、「第3章2事例紹介」をお読みください。

まさに、学び合うOJL!

外部講師活用による教員の資質・能力の向上

カリマネの視点

「単元研究会の検証及びカリキュラム・マネジメントの推進に向けて」



講師 田中裕一 先生

(兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課副課長兼教育推進班長、前文部科学省初等中等局特別支援教育課特別支援教育調査官)

本校の研究について、全面的にご助言をいただきながら進めています。特に、単元研究会の進め方や教科等横断的な視点に立った資質・能力等について、大いに参考になるご助言があり、その後の取組みに大きな示唆を与えていただきました。また、11月15日に行なわれた第2回校内研修会において、「単元研究会の検証及びカリキュラム・マネジメントの推進に向けて」と題し、具体的な話を交えながら、ご講演いただきました。

【感想】

- カリマネが、子どもの成長にどのように影響を与えていくのか、分かりやすかった。
- 学習指導要領のことを含めて、今の子どもたちにどれだけの力を伸ばせるかを考えるエッセンスが多くあり、自分の授業の参考になった。
- 実際の経験談や研究授業の例から、自分たちの指導や支援について、振り返る機会となった。また、新学習指導要領のお話から、カリキュラム・マネジメントの大切さや、3つの資質・能力について、指導に生かしていきたいと強く感じた。 等

組織学の視点

「うまくいくチームのコツとは？企業で学んでいる組織（OJL）を学ぶ～自ら考え、動く組織・チームを創るために～」



講師 小野寺哲夫 先生

(東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科 准教授)

資質・能力を育むために、あらゆる授業、校務分掌でチームが発生して取り組んでいる。組織学を学び、チームを活性化する学問を学ぶことで、より目的に向かって創造的に取り組んでいく、持続可能な組織を作っていく人材を育成していく視点で実施した。

【感想】

- ビデオの事例がとてもわかりやすく、その後の講義も実際の姿を思い浮かべながら聞くことができました。今後は、一人一人の心理的安定を図りながら目的をしっかりともって「グループ」ではない「チーム」を作っていければと思います。
- 困った時に支え合い、心理的安全性を踏まえて、何でも話し合える職場（校務分掌）がつくれたら最高です。本日、学んだことは、教師としてだけでなく「人の生き方」にも大きく関わってくるのだと強く感じました。今後もOJL及び学習する組織を学んでいきたいと思います！



○心理的安全性の高いチームづくり、大事なんだなと思いました。今、働いている環境はとても良い状態だと感じているので、自分もそのようなチームづくりが今後できるよう努めていきたいです。

リモートで実施!!!



第3章

2 - 1 事例紹介

“子どもの学び”を捉え

単元研究した実践事例

単元案、単元研究会の取り組みを通して、本時の授業力、単元構想力、教育課程等への効果があった事例について紹介していく。

- 生活単元学習「すなあそびをしよう」小学部 遠藤砂絵教諭
- 生活単元学習「地域を知ろう」中学部 遠藤徹教諭
- 職業「現場実習に参加しよう」高等部 八巻美貴教諭

実践事例

①

生活単元学習「すなあそびをしよう」

小学部 遠藤砂絵教諭、阿部安代教諭

1

単元の実践に当たっての工夫

各教科等を合わせた指導での各教科の見方・考え方

本単元は、「すなあそびをしよう」という小学部通常の学級1年生における生活単元学習である。各教科等を合わせた指導においても、**各教科等の目標を明確にし**、子どもにとっては「砂遊び」という身近な興味のある素材を使って、**単元構想等を工夫**している。

各教科等の目標を明記

【資質・能力の育成のための教育活動として】			
生活単元学習単元案			
単元・題材名		「すなあそびをしよう」	
【単元・題材で育成する資質・能力】 主に小学部1段階で設定			
生活科	知識・技能 砂遊びや水遊びの楽しさ、おもしろさ、気遣いの大切さなどを知ることが出来る。	思考力・判断力・表現力等 人でのびのび遊ぶことが出来る。友達と遊ぶ楽しさを伝えたり、一緒に遊ぶ工夫をすることが出来る。	学びに向かう力・人間性等 遊びを通して自分の好きな遊びを見つけたり、友達と遊ぶ楽しさを伝えたり、一緒に遊ぶ工夫をすることが出来る。
算数科	砂や小石等の自然物に触れながら、砂を築き上げ、砂山を作る。水遊びをする。水遊びをする等の遊びをすることが出来る。	作りたいものをイメージしながら砂を築き上げたり、水遊びをする。水遊びをする等の遊びをすることが出来る。	砂や小石、水等の自然物に触れながら砂遊びをしたり、水遊びをする。水遊びをする等の遊びをすることが出来る。
英語科	砂遊びを通して、砂の大きさ、小さい物の大きさを知ることが出来る。	大小の砂を築き上げることに興味をもつ。物の大きさを比べることが出来る。	砂遊びを通して、大きい・小さいの差に気づく。物の大きさを比べることが出来る。

どこで、何を教えるのか、構想の工夫

【何をいつ、どのように育んでいくのか】				
展開	時数	評価規準	主	
第一次	1	図工	○	8/31
	2	算数	○	8/31
*自立活動(個々)				
第二次	3	生活	○	8/31
	4	図工	○	8/31
	5	算数	○	8/31
*自立活動(個々)				
第三次	6	生活	○	8/31
	7	図工	○	8/31
	8	算数	○	8/31
*自立活動(個々)				

砂山遊びを通して、算数科の学び「大きい、小さい」に浸って、習得していく。

第二次は、第一次で学んだ「大きい、小さい」を活用しながら、「図工の学び「素材を握ったり、固めたり」に浸って、学習をしていく。

他教科との関連も押さえる

何を指導するための各教科等を合わせた指導なのか、指導する教科の資質・能力を明確にし、いつ教えるのか、評価規準を明確にしている。

その際、授業者は、子どもたちが、授業の中で、どの見方・考え方を働かせて対象物と向き合うと学習がスムーズになるか、目標を達成できるようになるかを考え、単元を構想して、実践した。

【他の単元とのつながり】			
	「過去の単元」	「現在の単元」	「今後の単元」
国語科	「なまはなはな」 ・道具の名前	「あいうえお」をよもう ・道具の名前	「おはなしであそぼう」 ・山、川、海等の自然
算数科	「あるかないかな」 ・対象物の存在 「なかまわけをしよう」 ・乗り物、道具	「かぞえてみよう」 ・道具の数	「かたちあそびをしよう」 ・図形 「おもしろい、ちいさい」 ・大きさ比べ
生活単元学習	ねんどであそぼう ・粘土遊び	「すなあそびをしよう」 ・砂遊び	「のりものであそぼう」 ・乗り物遊び
日常生活等	休み時間 ・砂遊び		

2

子どもの学びから

単元の中の学び、単元からつながる学び

本時の姿より

導入時



見方・考え方のスイッチオン!



じょうろを使って...



水を使って、叩いて固めて、対象物を変化させて、世界の広げ方を知る

“自分のやりたいことが学びになる！授業”

授業の導入で、砂遊びを楽しくするためのコツとして、「固める（コツは、叩く・水で濡らす）」、「掘る」などを考える機会を設定し、子ども達が素材を扱って造形する見方・考え方の世界に入りながら、図画工作の見方・考え方を働かせて学びを深めていった。

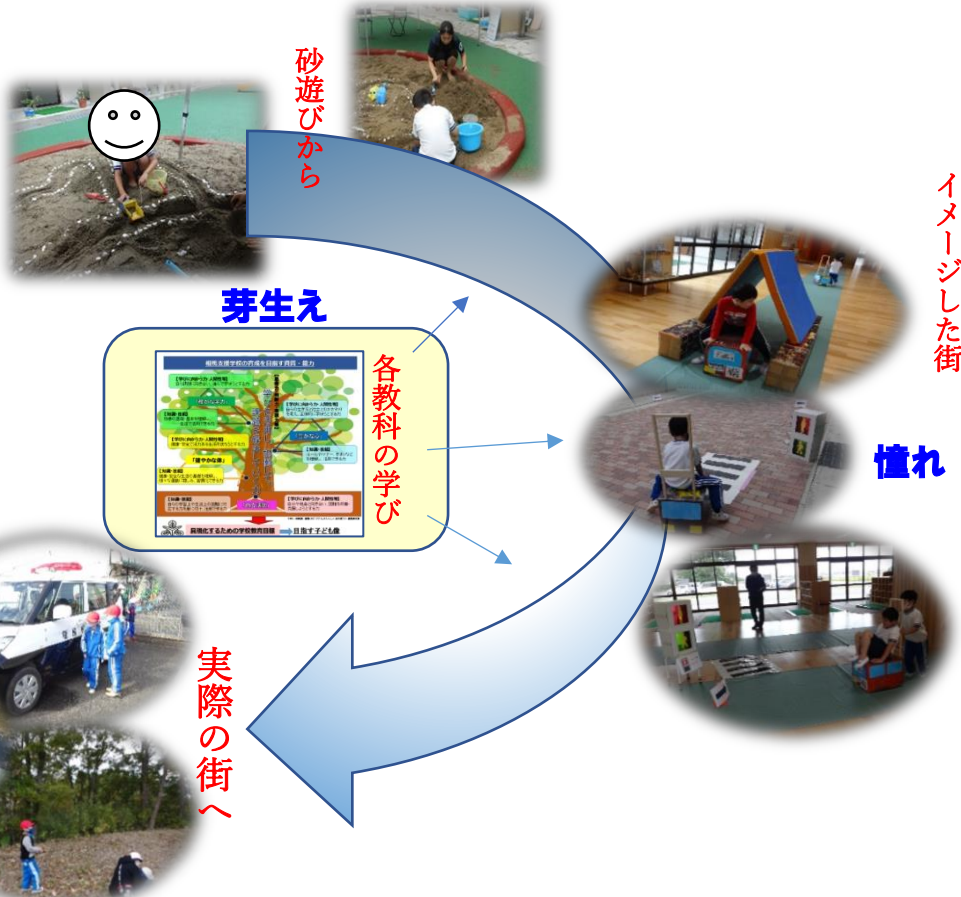
今の単元から、次の単元へ



【単元研究会の様子】

単元構成で、子どもたちが“街”づくりを行っている。子どもたちの学んでいる様子から、このコンテンツを学びの中心にしながら、今の単元から、次の単元へつなげるアイデアがでる！

単元研究会後も、
アイデアを生かして発展！！



単元案、単元研究会を通して、授業者は、育みたい資質・能力を意識しながら、子ども達が学びやすいように教育の内容の配列を工夫し、年間を通して実践を行なってきた。子ども達が何を学ぶのか、何を学んだのか、その視点を大切にしながら、子ども達の学びを展開することで、子ども達が学びを深めていく様子が見られた。

カリマネ！

経験者研修Ⅱ 授業研究単元案

指導者:小学部1年1組 遠藤砂絵

相馬支援学校 単元案



本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
小学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
身近な生活で扱う基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、友達と一緒に課題を解決していく力	自ら学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

生活単元学習単元案	単元・題材名	「すなあそびをしよう」
-----------	--------	-------------

【単元・題材で育成する資質・能力】 主に小学部1段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活科 ④遊び	砂遊びや砂遊びの道具・おもちゃ、友達の遊び方等に関心をもつことができる。	一人で好きな遊びをしたり、友達と関わり合ったりしながら一緒に砂遊びをすることができる。	道具を使って自分の好きな砂遊びをしたり、友達の遊び方に注目して真似をしたりしている。
図画工 作科 A 表現	砂や小石等の自然物に触れながら、砂を握る、積み上げる、砂山を崩す、小枝を並べる等の遊びをすることができる。	作りたいものをイメージしながら砂を握ったり押したりして形を変えたり、道具を使ったりして表現することができる。	砂や小石、小枝等の自然物に触れながら砂遊びをしたり、進んで道具を使おうとしたりしている。
算数科 D 測定	砂遊びを通して、砂山の大きい・小さい等の違いに気付いて区別することができる。	大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。	砂遊びを通して、大きい・小さい等の違いに気付いたり、量の大きさを表す言葉を使おうとしたりしている。

* 自立活動 個別の指導計画の指導内容による

単元構想のためのメモ欄

8/25、26、31、9/1、2(本時)、

※ふれあいコート1の砂場で展開する。暑
テントを設置する。(大雨、雷等の悪天候
※砂の感触を楽しめるように裸足で行うが、
ダルも用意する。

※砂場で水を使用できるように、教室の水
用意したりしておく。

※1時間を前半と後半に分けて、前半は設定遊び、後半は自由遊びを展開するようにする。

各教科ごとに、学習指導要領の内容から目標を設定することで、具体的にこの単元で育みたい資質・能力を明確にし、授業場面での意識につながっている。
これまでの「結果として学んだ」各教科等を合わせた指導からの脱却！

【「何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

展開	時数	評価規準○				●どのように【学習活動】 主・対・深 どのような指導で(習得、活用、探求)	
		教科名	知・技	思判表	主		
第一次	1	生活	○			8/25、26 (2h) ●すなやまをつくろう。 主・対 ： ・道具(スコップ)を探して、砂山を作る。 ・2チームに分かれて砂山を作り、どちらが大きい(高い)かを比べる。 〈悪天時案〉 ・粘土で山を作って、大きさ(高さ)を比べる。	習得・活用
		図工	○				
	2	算数	○	○	○		
		*自立活動(個々)					
第二次	3	生活	○	○		8/31、9/1、2(本時) (3h) ●みちをつくろう。 主・対・深 ： ・第1次で作った山の周りに道路を作る。道路は掘って作る、小石を並べる等、児童が考えて作れるようにしておく。 ・山にトンネルを掘って道路をつなげる。(本時) 〈悪天時案〉 ・砂の道を通る車のおもちゃを作る。(ペットボトル等)	習得・活用・探究
		図工		○	○		
	5	算数					
		*自立活動(個々)					
第三次	6	生活		○	○	9/7、8、9 (3h) ●うみをつくろう。 対・深 ： ・海を掘り、水をたか考え、山から川、海に水がたまったら、砂を固めてお家を作る。 〈悪天時案〉 ・砂絵をする。	活用・探究
		図工		○	○		
	8	算数					
		*自立活動(個々)					

「教える」だけの視点に陥らないように、「子どもがどのように学ぶか」という視点で単元を構想している。

※自立活動と密に関連して展開する。

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」	「現在の単元」	「今後の単元」
国語科	「なまえはなに」 ・道具の名前	「あいうえお」をよもう ・道具の名前	「おはなしであそぼう」 ・山、川、海等の自然、町
算数科	「あるかな ないかな」 ・対象物の存在 「なかまわけをしよう」 ・乗り物、道具	「かぞえてみよう」 ・道具の数	「かたちあそびをしよう」 ・図形 「おおきい、ちいさい」 ・大きさ比べ
生活単元学習	「ねんどであそぼう」 ・粘土遊び	「すなあそびをしよう」 ・砂遊び	「のりものであそぼう」 ・乗り物遊び
日常生活等	「休み時間」 ・砂遊び		

カリマネ!

【「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とのつながり】 ※幼稚園教育要領を参照

	S. Y	K. R
2、自立心 (領域:人間関係)	やりたい遊びがあっても「一緒にやろう。」と誘ったり、一人で集中して遊んだりすることができずに、すぐに遊びを替えてしまう。	好きな遊びを十分に楽しむ姿は見られるが、できないことがあるとすぐに先生に「やってください。」と頼んでしまうことがある。

授業者のパイオニア研修と連動して、独自の項目を入れて、研究を進めた。

【個別の指導目標及び手立てと学習評価】

	教科	単元の指導目標 ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力等 ③ 学びに向かう力、人間性等	手立て及び配慮事項	目標に準拠した学習評価
S.Y	生活科	①砂遊びや砂遊びの道具・おもちゃ、友達の遊び方等に関心をもつことができる。 ②一人で好きな遊びをしたり、友達と関わり合ったりしながら一緒に砂遊びをすることができる。 ③道具を使って自分の好きな砂遊びをしたり、友達の遊び方に注目して真似をしたりしている。	○砂遊びの道具やおもちゃに関心をもてるように、道具を探すゲームを取り入れる。 ○関わり遊びを展開できるように、チームで活動を行う。 ○友達の砂遊びに注目したり、一緒に遊んだりできるように言葉掛けを行う。	○おもちゃのかごの中からスコップやざる、お玉等を選んで砂遊びをしたり、友達がじょうろに水を汲んでいる様子を真似して水を汲みにいったりすることができた。 ○自由遊びでは、ざるを使って石集めをしたり、先生から提案されたおもちゃ探しをしながら砂遊びをすることができた。特におもちゃ探しでは、先生が隠したおもちゃを掘って見つけたり、おもちゃを埋めて友達を誘ったりして遊ぶことができた。 ○ざるや植木鉢を使って小石集めをしたり、友達がバケツをひっくり返す様子を真似したりしていた。
	図画工作科	①砂や小石等の自然物に触れながら、砂を握る、積み上げる、砂山を崩す、小枝を並べる等の遊びをすることができる。 ②作りたいものをイメージしながら砂を握ったり押ししたりして形を変えたり、道具を使ったりして表現することができる。 ③砂や小石、小枝等の自然物に触れながら砂遊びをしたり、進んで道具を使おうとしたりしている。	○小石や木の枝等、児童が使いそうな材料を集めて、置き場所を設定しておく。 ○砂を固めるためには水が必要であることに気付けるように、問いかけをしたり、見本を見せたりする。 ○お互いのよいところを認め合い、真似したり、自分なりに工夫したりすることができるように、友達の作品に注目する機会を設定する。	○砂や小石、枝等に触れながら砂を積み上げる、固める、砂山を足で崩す、枝を折って使う等の遊びをすることができた。 ○トンネルを作るためには「砂山を作る→固める→掘る」という流れが必要であることを理解し、じょうろで水をかけて固めたり、スコップや手を使って穴を掘ったりしながらトンネルを作ることができた。 ○小石を集める際に、ざるをゆらして大きめの石を集めようとしていたり、枝を半分に折ってトングのように使いながら石をつまんで集めたりしていた。
	算数科	①砂遊びを通して、砂山の大きい・小さい等の違いに気付いて区別することができる。 ②大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現することができる。 ③砂遊びを通して、大きい・小さい等の違いに気付いたり、量の大きさを表す言葉を遣おうとしたりしている。	○大きさ等を測る基準として棒を用意しておく。 ○量の大きさを表す用語の語彙を増やしたり、違いに気付いたりすることができるように、個別に言葉掛けをする。 ○勝敗にこだわりがあるため、始めにルールを提示する等の配慮が必要である。	○砂山に棒を立てて印を付けながら大きい・小さいの違いに気付いて区別することができた。 ○教師が「どっちが大きい？」と尋ねると「こっちが大きい。」「昨日より小さいね。」等と砂山の大きさについて言葉で表現することができた。 ○大きい砂山を作ろうと友達の砂山と自分の砂山を見比べながら砂をたくさん集めたり、自分から「棒を貸してください。」と言って棒を砂山に立てながら大きさを比べたりしていた。

「何が身についたのか」を単元途中でも定期的に学習評価をして授業改善に生かしていく。単元終了後、3つの観点に沿って、資質・能力がバランス良く育まれたのかを振り返る。また、各教科の目標に準拠した学習評価をすることで、これまでの「あの教科が関連していたよね。」という曖昧な学習評価から、各教科の資質・能力がどのように身についたのか、習得状況はどうか、考える根拠となっていた。

カリマネ!

実践事例
②

生活単元学習「地域を知ろう」

中学部 遠藤徹教諭、渡邊美穂教諭

1

単元の実践に当たっての工夫

社会の見方・考え方を働かせた単元展開

本単元は、「地域を知ろう」という中学部通常の学級2年生における生活単元学習である。各教科等を合わせた指導として、社会科、職業・家庭の指導を行なっている。特に、「社会」では、小学校の社会科指導要領「我が国の地理や歴史」の身近な地域や市区町村の様子に関わる学習活動の内容とほぼ同じであることに気づき、その学習の展開を参考にしながら知的障がい生徒が分かりやすくなるように、具体的に体験したり、触れて分かる・実感できる教材を使ったりと、単元構想等を工夫してきた。

双方の内容を確認！指導する内容がほぼ同じ！



つまり！

単元の展開の仕方を整理された教科書を参考に！



本校では、小学校の各教科等の教科書を揃えている。小学校指導要領と内容の整合性を確かめながら、参考にできる部分は、参考にして取り組んでいる。

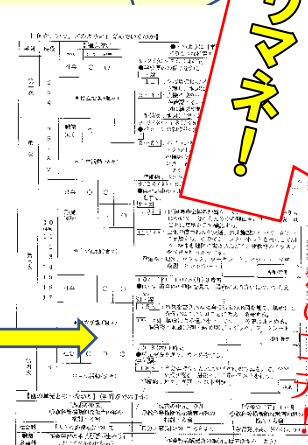
基本をしつかりと押さえる！
学びの連続性と

押さえた上での、知的障がい教育の工夫！！



カリマネ！

単元構想の工夫！



子どもが実感できる単元構想

学ぶ世界の出会い

航空写真を初めて見て、
学校周辺の地域を知る。確かめる。
学校周辺の知識を深める。社会の見方・
考え方

“生徒の学びの視点に立つ！！”

本時の姿より

知識が
つながるお、これは！？
粘り強く考える！

悩む！考える！



新たな視点！

南相馬市は？
特徴あるの？

海沿いの土地を見て、「(低い土地) ずっと続いている。」「西から東へ小さい山が4個出ている。」「山は北から南に広がっている。」

抽象的な地図からの読み取りが難しいと考え、地図の立体模型を作成し、授業を展開した。生徒が教材と出会うことで、さらに、社会科の見方・考え方を働かせ、教材から、対話から、自身の考え方を広げ、学びをさらに深めていった。

授業者は、「社会科の見方・考え方」を十分に働かせることで、子ども達に資質・能力が育まれることを実感。本校中学部は、社会の教科別の指導はなく、各教科等を合わせた指導だけでは、中学部の社会の1段階、2段階の指導が十分でない可能性に気づき、次年度から、中学部において、教科別の指導で「社会」が設定される改善につながった。

カリママネ！

経験者研修1 授業研究単元案
指導者：中学部2年1組 遠藤徹

相馬支援学校 単元案



本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
中学部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、生活につなげようとする力の育成	自ら考え、協働し、課題に気付いて改善しようとする力の育成	自ら進んで学ぼうとする力の育成

【資質・能力の育成のための教育活動として】

生活単元学習 単元案	単元・題材名	「地域を知ろう」
------------	--------	----------

【単元・題材で育成する資質・能力】 ※主に中学部1段階で設定

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
社会	学校周辺や南相馬市全体など、自分達の身近な地域の様子について知ることができる。	地形、土地利用などに着目して、学校周辺や南相馬市全体の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することができる。	自分達の身近な地域の様子について知って自分から答えたり、学校周辺や南相馬市全体の様子を捉え、場所による違いを考え、表現しようとしている。
職業・家庭	パソコンの初歩的な操作の仕方を知ることができる。	パソコンに触れ、調べたことを他者に伝えることができる。	パソコンの初歩的な操作の仕方について自分から学ぼうとしたり、調べたことを友達や教師に伝えたりしようとしている。
* 自立... 別の指導計画の指導内容による			

各教科等を合わせた指導として、パソコン等を活用して、調べるときに、「職業・家庭」における「情報機器の活用」の内容を合わせて指導を行なった。

○総授業時数：9/2(水)～10/8(木) 計18時間【本時9/25(金)3校時】

○班編成

A班：A、E、F (遠藤)

B班：B、C、D (渡邊)

○校外学習

日時：9/4(金) 3・4校時

場所：学校周辺

○地図

航空写真を使用。

【何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

展開	時数	評価規準○				●どのように【学習活動】 主・対・深 どのような指導で(習得、活用、探求)
		教科名	知・技	態度	主	
第一次	1	社会	○	○		9/2(水)~7(月)4時間 ●学校周辺の様子を知る。 主・対 1h : 学校周辺にはどのようなものがあるのかを班ごとに予想し、地図に書き込む。 2~4h : 実際に校外へ出て、班ごとに予想が当たっていたのか確認する。その後、事後学習において、新しい地図に結果や気づいたことを書き込む。 準備物: 地図(予想・結果用)、ワークシート
	2	*自立活動(個々)				
	3					
	4					
第二次	5	職業	○			9/9(水)~18(金)5時間 ●パソコンの初歩的な操作の仕方を知る。 主 1~8h : パソコンを実際に操作しながら、立ち上げ方やクリックの仕方、インターネットの使い方(調べたい内容の検索方法)などを教師と一緒に確認する。また、インターネットのルールやマナー、危険性についてワークシートを通して学習する。 準備物: パソコン、手順表、ワークシート
	6	家庭				
第三次	10(本時)	社会	○	○		(金)~9/30(水)8時間 ※研究授業10/18時間目 ●南相馬市の土地の高さや広がり、土地の使われ方などの様子を知る。 主・対 10h : 南相馬市全体の地図を見て、土地の高さや広がり方について自分の考えやその理由を出す。その後、班ごとに模型を見て確認する。 11~14h : 土地の使われ方や交通、公共施設について、班ごとに予想する。その後、インターネットを活用して調べ、結果を地図に書き込んだり、建物等のイラストや写真を貼ったりする。 準備物: 地図、マジック、ワークシート、イラスト、写真模型、ヒントカード
	11	*自立活動(個々)				
	12					
	13					
	14					
	15					
	16	社会		○	○	
17						
第四次	18	社会	○	○	○	10/8(木)1時間 ●単元を振り返り、まとめをする。 主・深 18h : 自分達で作った地図やその時の写真を見て、学習を振り返る。最後に、単元のテストを行う。 準備物: 地図、写真、テスト問題

各教科等を合わせた指導として、社会だけでなく、パソコンなどの指導も行なった。

どのように「探究」していくのか、授業者も向き合う。

【他の単元とのつながり】(現時点での予定)

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の 検討・考察	「現在の単元」9月 ○教科等横断的な教育内容の 検討・考察	「今後の単元」10月 ○教科等横断的な教育内容の 検討・考察
社会科	「人との距離感について」	「自分と家族について考えよう」	「学習発表会、がんばろう」
職業 家庭科	「作業学習の手順を思い出そう」 (リサイクルの仕組み)	「作業製品販売会の準備と販売活動をしよう」	




授業研究日時：令和2年9月25日(金) 第3校時
 場所：中学部2年1組教室
 指導者：遠藤徹(T1)、渡邊美穂(T2)

【本時の指導目標】

(1) 社会

- 南相馬市全体の地図や模型を見て、土地の高さや広がりについて知ることができる。(知識・技能)
- 地図や模型を見て、土地の高さや広がりについて気づき、場所による違いについて表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)

【本時の指導過程】

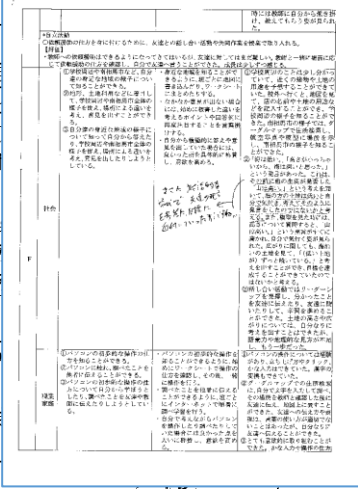
学習活動・内容	時間	主体的・対話的で深い学びの実現のための手立て (主・対・深) *評価計画
<p>1 はじめのあいさつをする。 ・黒板を見て日直を確認する。</p> <p>2 前時の学習を振り返る。 ・教師の話聞く。</p> <p>3 本時の目標と学習内容を知る。 目標 土地の高さや広がりについて知ろう</p> <p>学習内容 ①土地の高さについて、自分の考えやその理由を書く。 ②班ごとに○○(模型)を見て確認する。 ③土地の広がりについて自分の考えを書き発表する。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日直に注目できるように言葉掛けする。(T1、T2) ・前時の学習を思い出すことができるように、班ごとに作成した地図を提示し質問する。(T1) 主 目標や学習内容が分かるように、黒板に板書し、言葉の意味について簡単な言葉で簡潔に説明する。また、本時の目標をいつでも確認できるように、ワークシートの記入欄に書く。(T1) ・生徒Aや生徒DがT1の話聞くことができるように、指さしや言葉掛けをして促す。(T2) ・生徒Dや生徒Eが本時の目標を書くことができるように、ホワイトボードに書き手元に提示する。(T1、T2)
<p>4 南相馬市の土地の高さや広がりについて知る。 ①班ごとに土地の高さについて、自分の考えや理由を書く。</p>  <p>②模型を見て確認する。</p>  <p>③土地の広がりについて、自分の考えを書く。</p> 	<p>30</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; color: red;">どのように、子どもが学ぶか考える！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図をよく見て考えることができるように、班ごとの移動黒板を用意し、地図を提示する。(T1、T2) 対 一人一人自分の考えやその理由を出すことができるように、教師が問い掛けていく。意見が出ない場合には、①山(阿武隈高地)、②海に面した所、③低い土地が広がる所の写真が入ったヒントカードを提示し、1枚引かせる。(T1、T2) ・友達の意見が分かるように、話す友達に注目を促したり、分かりやすく教師が地図や写真(ヒントカード)を使って説明したりする。また、班ごとの表に書き込む。(T1、T2) ・高さに気付くことができるように、見る視点を伝えたり、実際に触れて確かめたりする。 ・模型を見た後での自分の考え、気付いたことをワークシートに書いたり、班ごとの表に書き込んだりする。(T1、T2) ・土地の広がりについて気付くことができるように、地図や模型に注目を促したり、広がっている範囲を指さしたりする。(T1、T2) <p>※南相馬市全体の地図や模型を見て、土地の高さや広がりについて知ることができたか。 (知識・技能)</p> <p>※地図や模型を見て、土地の高さや広がりについて気づき、場所による違いについて表現することができたか。 (思考力・判断力・表現力等)</p>

単元研究会を生かした「授業改善アイデア」実践報告

中学部 遠藤 徹

10月1日の単元研究会では、様々な視点からいただいた多面的な学習評価（観点別学習状況評価）、単元のまとめり等のアイデアを生かして、下記のように授業改善を図り、授業実践、単元を行いましたので、報告いたします。

単元研究会での多面的な学習評価から気付き	
対象児童生徒	<p>【本時の個別の指導目標】 ＜社会科＞</p> <p>①自分で考えたり、友達の考えを聞いたりして、南相馬市の土地の高さや広がりについて知ることができる。</p> <p>②土地の高さや広がりについて気付き、地図を指さしたり模型を使ったりして、場所による違いを自分なりに表現することができる。</p> <p>①○模型を手がかりにして自分で考えることができていた。 ○「海は下に深い。」「東の海が学校より遠い。」と自分の言葉にして考えることができていた。 ●高さや広がりを考える上での基準が分かっておらず、発想が難しかった。</p> <p>②○土地の高さは、「登れない。」と自分の言葉で考え、表現することができていた。また、模型で立体的に見ることで、高さに気付くことができていた。 ○土地の広さについては、友達の意見を参考にして、模型を触りながら、言葉にすることができていた。</p>
単元研究会から得た本時の授業改善アイデア 【ことば】【環境】【指導】【教材】【構成】の視点での整理	
【ことば】	○「遠い」「高い」「小さい」など言葉掛けや扱う言葉の整理をする
【環境】	○模型を地図と同じ方向で提示し、方角を書いておくと考えやすい
【指導】	○Googleアースをテレビに映して考えると、生徒もイメージしやすい
【教材】	○言葉の精選をする
【構成】	○高さや広がりを考える上での基準として、模型や地図に旗のような
【その他】	○知識が身に付いたのか確かめるために、小テストのようなものがあ
単元研究会から得た単元のまとめりでの授業改善アイデア	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科での対義語の学習ができる。 ・土地の高さや広がりから、社会科の川や農業の成り立ちにつなげることができる。 ・模型を活用して、実際に水を流すことで、理科の山の成り立ちを学習することができる。 ・小学部からの学習のつながりも考えて、単元を構成できるとよい。 	
単元研究会で得たアイデアを実践して（考察）	
<p>【アイデアを実践してみた】</p> <p>*単元案の改善、単元終了後の学習評価は、別紙単元案をご覧ください。</p> <p>今回の授業改善のアイデアを受けて、もう一度土地の高さと広がりについて学習した。アイデアに挙げた「模型を地図と同じ方向で提示し、方角を示すこと」「高さや広がり考える基準となる目印を模型・地図上に置くこと」を実践し学習を進めていくと、「山は高い。自分よりも背が高いから。」「自分のいる所は低い。自分の足のところにあるから。」と平地のことも考え、表現することができた。また、土地の広がりについても考えていくと、「西から東へ小さい山が4個出ている。」と自分で方角を用いて、言葉で考えを表現することができた。教材研究をする上で、生徒の実態や学習・生活経験などを踏まえて、生徒の視点に立ち、準備していくことが必要であることを改めて実感した。</p> <p>【次の単元へのどのように生かしていくか】</p> <p>今後は、「外国の様子について知ろう」という単元で、外国の文化や風習について知ったり、日本との違いについて考えたりしていく。その際、今回学んだ「生徒の実態や学習・生活経験」「生徒の視点」といったことを十分に考慮しながら、教材研究を行い、生徒が分かる授業を展開していきたい。</p>	



単元後の学習評価！

カリマネ！

指導内容の基本を押さえた上で、生徒の実態や学習・生活経験を踏まえて、指導をしていく気づきとなっている。まさに、「何を教えるか」から、「どのように学ぶか」を考え、追究しながら行なっていた実践事例である。また、単元研究会や単元後の学習評価等から、指導形態ありきではなく、そのまま教科別の指導の方が指導しやすいことから、「社会」の教科別の指導の設定の改善がなされた。

職業「現場実習に参加しよう」

高等部 八巻美貴教諭、伊藤真吾教諭

1

単元の実践に当たっての工夫

生徒が自己の課題と向き合い、成長を実感

本単元は、「職業科」で高等部通常の学級1年生における教科別の指導である。11月の現場実習に向けた単元である。学習指導要領の解説内容を読み込み、必要な指導事項を意識しながら取り組んできた実践である。

【単元・題材で育成する資質・能力】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力 等	学びに向かう力・人間性 等
第一次	職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を活用することができる。	実習における自分の役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現することができる。	実践的な活動に取り組んだり、仕事をする上で必要な態度について話し合ったりしようとしている。
第二次	職業など卒業後の進路に必要となることについて理解することができる。	産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現することができる。	産業現場等における実習を通して、成果や課題を明らかにし、課題を解決しようとしている。

現場実習に向けた単元として、現場実習までの期間に、それらに必要な内容を学んでいく。単元構想の目標の部分においても、第一次では、「A職業生活イ職業」を目標とし、実際の現場実習中の第二次では、「C産業現場等における実習」を目標とすることで、現場実習を乗り越える学習ではなく、教科の指導として、単元を構想し、資質・能力を育むことを意識する単元構想をしていった。

単元構想のメモの有効活用

指導要領の内容から目標をもってきて、漠然としていることから、内容解説から、さらに、具体的な指導項目、評価項目について、メモをして、指導の際に、意識できるようにした。

具体的
な指導
内容項目
(評価規
準)

単元構想のためのメモ欄

(段階・領域等)

○高等部学習指導要領職業1段階

A職業生活 イ職業 (ア) ⑦、(イ) ⑦ C産業現場等位お

【職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能】

- ・円滑な仕事をする事、標準的な動作を順守すること、正確な作業を一定時間継続すること、作業目標の達成を意識して積極的に取り組むこと、最後までやり遂げること、時間帯や場所などに応じた服装、動作、挨拶や言葉遣いができること。

【職業など卒業後の進路に必要となること】

- ・いろいろなきまりを守ったり、仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げたり、状況に応じて自ら職場の人と協力したりすること。

(グループ編成) ①A、C、E ②B、D、F

2

子どもの学びから

生活に幅広く活用する力につなげるために

子どもが学ぶ必要を感じる本時、そしてその後

学ぶ世界の出会い



うまくメモ
できない

対話で協働して解決!



自分たちで、
解決するために話し合う

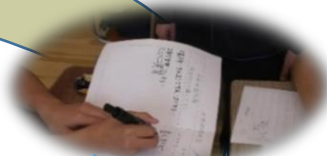
メモをしてみる



職業の見方・
考え方

“生徒の問題解決型!”

メモ量アップ!



友達と対話で、
解決方法の知識を広げる

日々の活用する力へ



知識を整理する

前の自分と
違う自分を実感



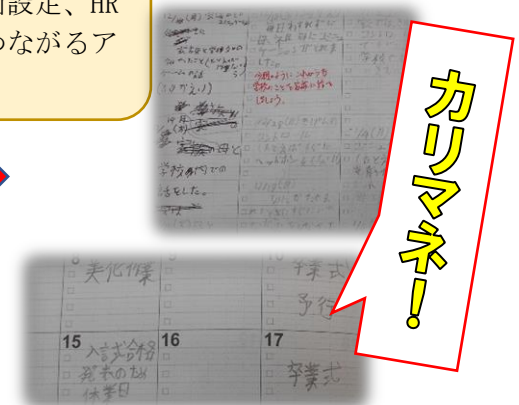
授業者は、自分自身が「仕事をしている身近な人」として、実際にメモを活用して仕事をしていることを伝え、なぜ、メモを活用しているのか、その点について、考えさせながら、職業科の見方・考え方の世界に導き、本時の授業を展開した。授業の中で、自分の課題や成長に関して、考える場面が意図的に含まれている実践である。

単元研究会から

メモをする場合に必要な技能や、日常に汎化していくための場面設定、HRの活用場面など、その後につながるアイデアがたくさんでした。



メモ帳を配布し、
普段の生活で活用!



カリマネ!

授業研究日時：令和2年10月16日（金）第3校時

場所：高等部2年2組教室

指導者：八巻美貴（T1）、伊藤真吾（T2）

相馬支援学校 単元案

本校の学校教育目標		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自ら考え、協働し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力
高等部		
知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
自立と社会参加のために必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、活用できる力	自分の考えを持ち、他者を理解し、課題を解決していく力	自ら進んで考え、学ぼうとする力

【資質・能力の育成のための教育活動として】

職業科単元案	単元名	現場実習に参加しよう

【単元・題材で育成する資質・能力】

	知識・技能	思考力・判断力・表現力 等	学びに向かう力・人間性 等
第一 次	職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を活用することができる。	実習における自分の役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現することができる。	実践的な活動に取り組んだり、仕事をする上で必要な態度について話し合ったりしようとしている。
第二 次	職業など卒業後の進路に必要となることについて理解することができる。	産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現することができる。	産業現場等における実習を通して、成果や課題を明らかにし、課題を解決しようとしている。

単元構想のためのメモ欄

〈段階・領域等〉

○高等部学習指導要領職業1段階

A 職業生活 イ職業 (ア) ㉞、(イ) ㉞ C 産業現場等位における実習 ア、イ

【職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能】

- ・円滑な仕事をする事、標準的な動作を順守すること、正確な作業を一定時間継続すること、作業目標の達成を意識して積極的に取り組むこと、最後までやり遂げること、時間帯や場所などに応じた服装、動作、挨拶や言葉遣いができること。

【職業など卒業後の進路に必要となること】

- ・いろいろなきまりを守ったり、仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げたり、状況に応じて自ら職場の人と協力したりすること。

〈グループ編成〉 ①A、C、E ②B、D、F

メモ欄の有効活用!!!

【「何を、いつ、どのように」育んでいくのか】

展開	時数	知 ・技	思・判 ・表	主	●どのように【学習活動】 主・対・深 どのような指導で（習得、活用、探求）	
第一次 （実習内容や目標、仕事で必要な態度について）	1	○			●実習の場所や仕事内容等について確認する。 主 ：自分が行く実習場所や仕事の内容等をプリントに記入しながら理解する。	習得
	2		○	○	●実習の目標について考える。 主・深 ：チェックシートを使って作業学習等の自分の仕事への取り組みについて振り返り、目標を考える。	
	3 (本時) 4	○	○		●メモの取り方について考える。 主・対 ：メモの取り方についてグループで話し合い、発表する。	習得・活用
	5 6	○		○	●電話のかけ方について理解する。 主 ：ロールプレイを取り入れながら、電話をかける時のマナーについて理解する。	
第二次 （産業現場等における実習事前・事後指導）	7 8	○	○		●実習への取り組み方について確認する。 主・深 ：実習中の時間の流れや気を付けること等について確認する。	習得・活用
	11/9～ 20	○	○	○	●産業現場等における実習	
	9 10		○	○	●実習を振り返り、良くできた点と課題となる点について考える。 主・深 ：チェックシートを使って実習中の自分について振り返り、課題については今後につなげることができるようにする。	活用・探求

【他の単元とのつながり】

	「過去の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「現在の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察	「今後の単元」 ○教科等横断的な教育内容の検討・考察
国語科	「ことわざや慣用句を知ろう」 ○生活に関することわざや慣用句について	「ていねいな言葉を知ろう」 ○目上の人に対する話し方	「電話を利用しよう」 ○電話での対応の仕方 「あいさつや会話をする力を高めよう」 ○挨拶の仕方や会話の進め方
ホームルーム	「働くための心構え（人とのつきあい、マナー）」 ○働くために必要なつきあいやマナーについて	「働くための心構え（健康管理、清潔、身だしなみ）」 ○働く上での健康面や身の回りの整え方	「働くための心構え（人との付き合い、マナー）」 ○働く上での周囲との対応の仕方
社会科	「生産から消費へ」 ○身近な製品の流通システムについて	「いろいろな仕事」 ○産業の種類について	「いろいろな仕事」 ○産業の種類について

教科別の指導によって、指導する教員が変わることが多い高等部だからこそ、他教科でどんな単元を学習しているのかを、まず意識することが大切。その中で、関連を図ることができることについては、子どもの学びを考えながら、つなげていった。

カリマナー!

【本時の指導目標】

○話を聞く際に気を付けて聞く点やメモを取るための方法が分かり、メモを取ることができる。(知識・技能)

○自分のメモの取り方について考えたり、メモする内容や方法について友達と話し合ったりすることができる。(思考力・判断力・表現力)

【本時の指導過程】

学習活動・内容	時間	主体的・対話的で深い学びの実現のための手立て (主・対・深) *評価計画
1 はじめの挨拶 ・当番の合図により、挨拶をする。	2	・当番が合図を出すように促す。(T1)
2 今日の活動について知る。 <u>めあて</u> メモの取り方について考えよう。	3	・教師が大事なことを話すと予告してから話をし、それを聞いて、内容をどれだけ覚えているか振り返る。 <u>主</u> ・大事なことを聞き逃さないためには、メモが必要であることを引き出して、本時の学習に主体的に取り組むことができるようにし、めあての確認をする。(T1)
3 話を聞いて、実際にメモを取る。 ・教師の話聞いて、自分が大切だと思ったことをメモする。	5	・実習の打ち合わせの場面を想定して、教師の話聞いて自分が大切だと感じることをメモすることができるように、プリントを準備する。(T1)
4 グループに分かれて話し合う。 ・メモした内容をもとに次の事柄について話し合う。 ①メモする内容 ②メモする方法	15	・発表する際に、相手グループに伝わるように、話し合いの結果を書くプリントを準備する。(T1) <u>主</u> ・大切なことを漏らさずにメモすることができたか自分のメモを振り返ったり、自分のメモと友達メモを比べたりさせる。(T1、T2) <u>対</u> ・メモをとる場面を想定しながら、メモする内容や方法について自分の考えを発言し話し合うように促す。(T1、T2) ・メモする方法について、考えが出にくいときには、教師の話メモした見本を提示し、自分たちがメモしたものと比較させる。(T1、T2) ※自分のメモの取り方について考えたり、メモする内容や方法について友達と話し合ったりすることができたか。(思考力・判断力・表現力)
5 グループで話し合ったことを発表する。 ・グループで話し合った内容について発表する。 ・相手のグループの発表を聞いて分かったことや、感じたことを発表する。 ・メモする内容や方法について確認する。	10	・グループの代表は前に出て、話し合った結果を記入したプリントを提示しながら発表することを確認する。(T1) ・発表を聞いて、分かったことや感じたことを発表するように促す。(T1) ・メモする内容や方法について、グループで話し合ったことをまとめたり、必要な点を補足したりしながら確認する。(T1)
6 確認した内容をもとに、もう一度メモを取る。 ・教師の話聞いて、自分が大切だと思	5	・もう一度、教師の話聞いて自分が大切だと感じることをメモすることができるように、プリントを準備する。(T1)



どのように、子どもが学ぶか考える！

単元研究会を生かした「授業改善アイデア」実践報告

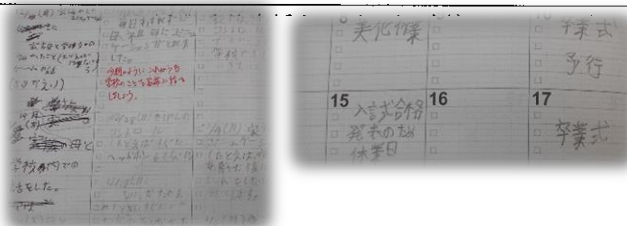
高等部 八巻 美貴

10月16日の単元研究会では、様々な視点からいただいた多面的な学習評価（観点別学習状況評価）、単元のまとめ等々のアイデアを生かして、下記のように授業改善を図り、授業実践、単元を行いましたので、報告いたします。

単元研究会での多面的な学習評価から気付き	
対象児童生徒	<p>【本時の個別の指導目標】</p> <p>①話の中で大切な点を聞き分けたり、メモを取るための方法を理解したりしてメモを取ることができる。</p> <p>②自分が取ったメモを振り返ったり、メモする内容や方法について友達と話し合ったりすることができる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を聞き分けて、思い出しながらメモを取っていたが、書くスピードが追いつかない様子だった。 ・メモの取り方を全体で確認した後もう一度教師の話聞いてメモを取った時には、消しゴムを使わない等学習した内容を意識しながらメモすることができた。 ・話し合う内容が盛りだくさんで、話し合いのスピードが遅かった。また、話し合いの論点が難しかった。 ・メモの観点と目的が明確になると良い。
<p>単元研究会から得た本時の授業改善アイデア</p> <p>【ことば】【環境】【指導】【教材】【構成】の視点での整理</p>	
【指導】	○メモを取り忘れた所を自分から質問できるようにする。 ○電話の仕方と関連させたメモの取り方の学習。
【教材】	○話し合いの観点を紙に書いて提示する。 ○ボイスメモを活用する。
【構成】	○話し合いの班を一般就労希望者と事業所希望者で分けて話し合いを行う。 ○メモした内容をお互いにチェックする。
【その他】	○普段からメモを取る機会を作ってメモを取ることに慣れたり、生徒同士で話し合う機会を設けたりする。

授業改善をして、単元終了後に再度学習評価！

単元研究会で得たアイデアを実践して（考察）
<p>【アイデアを実践してみた】</p> <p><u>*単元案の改善、単元終了後の学習評価は、別紙単元案をご覧ください。</u></p> <p>メモ帳を1人1冊ずつ配付し、メモを取るときに気を付けることを振り返ってから、教師の話メモする学習をした。気を付けることについては、「省略して書く。」や「大切なことだけを書く。」等について振り返ることができた。実際にメモを取ってみると、消しゴムを使わずに書いたり、速さを意識して書いたりして、学習した内容を思い出しながら取り組む生徒もいた。</p>
<p>【次の単元へのどのように生かしていくか】</p> <p>メモの取り方を身に付けるためには、1回の授業では難しいというご意見があった。朝の会や帰りの会でメモを取るようになる等、短い時間の積み重ねによって生徒たちが力を付けることができるように進めていこうにしたい。また、授業の中でもメモする習慣を身に付けることにより、大切なことを逃さず聞く話の聞き方も身に付けることができるようにしていきたい。</p> <p>メモの取り方に限らず、<u>毎日の積み重ねによって身に付けたい力があるが、限られた時間の中での指導が難しく感じることもある。短い時間でも効果的に実施することのできる取り組み方を考えていきたい。</u></p>



実際に改善！

カリマネ！

第3章

2 - 2 事例紹介

単元研究ダイジェスト

単元案、単元研究会の取り組みを通して、本時の授業力、単元構想力、教育課程等への効果があった事例について、ダイジェスト版にて紹介していく。

○8つの実践をダイジェスト版にて紹介

○単元案の実践を積み上げ、研究を深めていった研究報告

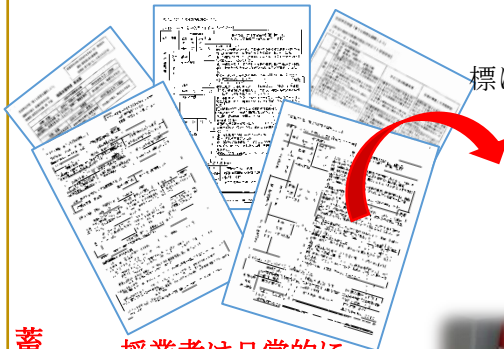
①

高等部
重複障がい学級

日々の実践、学習評価から、次年度「教科別の指導」へ

生活単元学習「育てた野菜を調理しよう」等 高等部3年 岡千愛教諭 小林みちる教諭

日々、指導目標について、その時間の評価規準に従って、目標に準拠した学習評価をしてきた。



言葉を聞く様子は見られたが、写真カードを提示するとそれを何かしようとするのに気持ちが向いてしまい、文字や写真、言葉へ注意を向けられない様子だった。「見るよ。」と言葉を掛けて何をする時間を意識させると、少し注目できた。

国語

ピーナッツや小豆が「いっぱい」入った袋と「少し」入った袋を持ち比べた。いっぱい入っている方は、ギュッと握ってたくさん入っている袋を見つめていた。「少し」入っている方は豆の一粒一粒をつまんでじっと見る様子が見られた。

数学

蓄積した学習評価が根拠に!!!

授業者は日常的に
単元にて実践



カリマネ!

生活単元学習では、そこで用いる素材を使って、「多い」「少ない」に触れる。学習になるが、その世界観に浸るのは一部の時間。授業者は、日々の学習評価から、もっと様々な物を使って、「多い」「少ない」の数学の見方・考える必要があると考え、次年度の教育課程改善へとつなげていった。

②

高等部
保健体育

保健体育科における資質・能力の育成
～「思考する時間」「体を動かす運動時間」の両立～

保健体育科「サッカー」等 高等部3年 和田拓也教諭 藤田俊之教諭

単元全体を見通して、資質・能力が育まれるように、その時間における評価規準を設定しながら、単元を構想していった。

単元	時数	知・技	思・判・表	主	どのような学習活動
第一次	1	○			●オリエンテーション・ルール、準備・片付けの確認。 ●ゲームを通じた自己学習
第二次	2, 3, 4	○	○		■ 本単元における学習態度を養える上 ●基本的な技術習得 ●キック・トラップの練習 ●練習実施後に、それゲームを実施
第三次	5, 6, 7		○	○	■ 教師が示範する動きの等しい基本動作 ●チームで練習方法を ●チームの（メンバー）間に必要な練習方法を ●練習実施後のゲームがスムーズに出来たかを振り返り ■ 自他の課題に気付く振り返りが出来る

習得↓活用↓探究へ



「学びに向かう力」

勝ちたい!
うまくなりたい!



「知・技」
「思・判・表等」

“いつ育むのか”
単元のまとまりを調整

「思・判・表等」



単元研究会で、「生徒同士のコミュニケーション能力を育むことが大事だね。」と、共通の認識になる。
→本校にとって、大切な教科等横断的な視点に立った資質・能力（言語能力）としての意識の高まり！
その後の教育課程改善のきっかけとなる。

カリマネ!

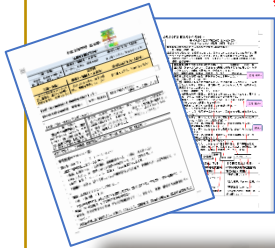


③

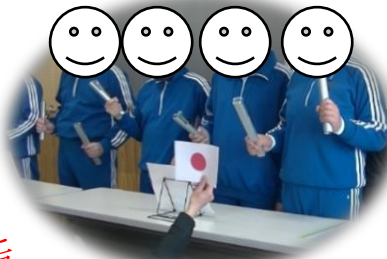
中学部
音楽

生徒が主体的に学び、協同して学習できる授業作り
～音楽の学習を通して～

音楽科「季節の曲に親しもう」 中学部 村上 まゆみ教諭 他



音楽の見方・考え方



グループ分けの工夫や本人が分かるような合図を工夫することで、自分が何の音を鳴らすのか徐々に理解できている様子が見られるようになり、目標としていた資質・能力を育むことができた。



多面的な学習評価!

単元研究会や学びの記録から、生徒の学びを見取る。生徒が「頑張ったよね」という学習評価から、観点別の学習状況評価による「何が身についたのか」を多面的に評価し、次の授業改善につなげた。

カリマネ!

④

小学部
国語

教科等の資質・能力を育むために必要な指導・支援
～教科学習を支える自立活動～

国語科「お話を作って発表しよう」等 小学部 橋本 玲教諭

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
教師とのやりとりや読み聞かせを通して、色々な種類の言葉を表す平仮名を読んだり、言葉に合わせた身体表現をしたりすることができる。	教師とのやりとりやイラスト等を手掛かりにして伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることで、お話の続きを考えることができる。	読み聞かせや教師とのやりとりに注目して、お話の続きを思い浮かべて選んだり、言葉や動作で表現したりしようとする。

【単元・題材で育成する資質・能力】

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
教師とのやりとりや読み聞かせを通して、色々な種類の言葉を表す平仮名を読んだり、言葉に合わせた身体表現をしたりすることができる。	教師とのやりとりやイラスト等を手掛かりにして伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることで、お話の続きを考えることができる。	読み聞かせや教師とのやりとりに注目して、お話の続きを思い浮かべて選んだり、言葉や動作で表現したりしようとする。

育む資質・能力

単元	国語科「お話を作って発表しよう」
知識・技能	教師とのやりとりや読み聞かせを通して、色々な種類の言葉を表す平仮名を読んだり、言葉に合わせた身体表現をしたりすることができる。
思考力・判断力・表現力等	教師とのやりとりやイラスト等を手掛かりにして伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすることで、お話の続きを考えることができる。
学びに向かう力・人間性等	読み聞かせや教師とのやりとりに注目して、お話の続きを思い浮かべて選んだり、言葉や動作で表現したりしようとする。



思・判・表等を通じて、「知・技」にアプローチするように、単元構成!

プラス!

自立活動の視点での指導・支援も含めて単元を研究! 学習評価より、次年度は「自立活動」の時間を設定するように改善!

カリマネ!



成果を発表・みんなの学びへ



教科学習と自立活動の関係は、互いに影響し合い、学習によって伸びていく!

⑤

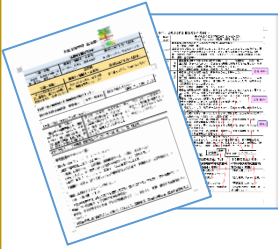
小学部
国語

言葉の見方・考え方を働かせて、学びを深める！
自立活動と関連させて、書字の技能を高める実践

国語科「えほんをつくろう」等 小学部 鈴木奈緒教諭

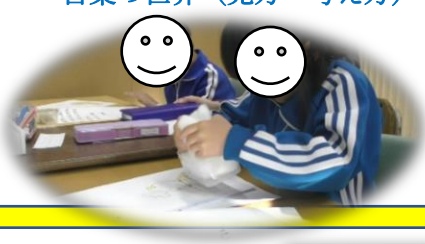
言葉の世界（見方・考え方）

体験と言葉を
結びつける！



物語の内容に浸る！

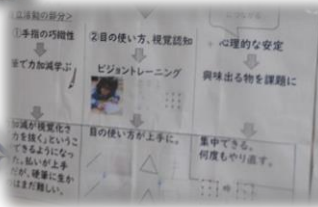
「つめる」新しい言葉
との出会い！



書くこと

自立活動：運動スキル・認知スキルへの指導も関連させ、書字の技能が向上。
学習評価から、「自立活動の時間」の設定へ！

6月当初



カリマネー！

研究成果を共有！



1月

「お」「あ」「む」「ん」
の形が正確に！

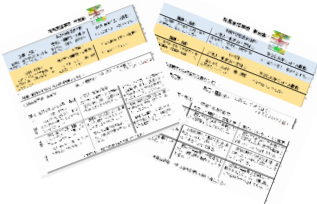
⑥

小学部
訪問学級

訪問学級における学びの充実
各教科等を合わせた指導の学習評価から指導形態を考える

生活単元学習「あさがおをそだてよう」「おはなしをよもう」等 小学部 立石茉莉由子教諭

日々、実践！



各教科の見方・考え方で対象に向き合う
目標で整理することで、授業が変わる！

国語	①呼びかけに対して応えたり、言葉の意図がわかる。 ②教師の話に応じて身振りをする。 ③教師の話に応じて身振りな動作で表したりしようとする。	①「池に落ちた。」の場面について、教師と動作を通して表現することができた。 ②「落ちた。」の場面には教師が「池に」と発すると、「池の方を見たり、「落ちこちた」と言う中に入ること予想してか「はあー！」と発声したりして表現することができた。
体育	①手を握ったり、腕を伸ばしたりする動作がわかる。 ②教師の言葉掛けや動きをもとに動作がわかる。 ③教師の言葉掛けを聞いた時、動きを楽しく体を動かそうとしている。	③教師が「ばしゃばしゃ」と水しぶきを表現すると、足をぐんぐん曲げ伸ばし「自分だけの動きで「ばしゃばしゃ」表現することができた。

各教科で、日々
観点別学習状況の評価！

教科別の指導で、対象物にじっくりと向き合う時間が必要。教育課程改善へ！

カリマネー！

授業者より：国語科の目標として何をどう取り上げるかを整理することで、教師側の問いかけがすっきりした感覚があり、どの言葉について学ぶのか、言葉の表すことは何なのかを動作化したことで、児童ももう一步踏み込んだ学習になっていたようだ。他の絵本でも学習を進めていくことでより言葉の世界に浸ることができるようにしたい。

⑦

中学部
作業学習

作業学習における各教科等の学びとは
～活動ありきではなく、各教科等の資質・能力を育むために～

作業学習「ペットボトルのリサイクルをしよう」等 中学部 太田賢孝教諭 他

各教科の目標

【単元・題材で育成する資質・能力】主に中学部1段階で設定			
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	
家庭科 理科	ペットボトルをリサイクルする目的を知ることができる。	意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くことができる。	学びに向かう力・人間性等 活動を通して、働く喜びを知り、自分の役割を考えようとしている。
社会科	集団生活の中で役割を果たすための知識・技能を身に付けることができる。	集団活動の中で何が必要に気づき、自分の役割を考え、表現することができる。	集団活動の中で、他者と協力しながら、自分の役割を果たそうとしている。
数学科	キャップの数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと個数に分けて数えたりすることができる。	数のまとまりに着目し、数の数え方や大きさの比べ方について考え、表現することができる。	キャップの数を10のまとまりとして数えよたり、出来高表に記録された数を比べようとしている。



子どもの学び
を見取る！



各教科の資質・能力を
観点別で学習評価！

数学

職業・家庭

社会

単元	活動	評価	学習活動	評価
1	ペットボトルのリサイクル	○	ペットボトルのリサイクル	○
2	キャップの数を数える	○	キャップの数を数える	○
3	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
4	キャップの数を比べる	○	キャップの数を比べる	○
5	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
6	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
7	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
8	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
9	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○
10	キャップの数をまとめる	○	キャップの数をまとめる	○

単元研究会



活動ベースではなく、各教科の資質・能力ベースで、単元研究会において学習評価、単元間、他教科との関連を議論！「～関連しているよね。」で終わらせず、学習評価まで行なうことで、指導の在り方、改善点が見えてきた。その成果を研究報告会で発表。

カリマネ！

活動ありきではなく、どの時間にどの内容を学ぶか、単元構想の中で評価規準を明記。

⑧

小学部
生活単元学習

日々、単元案を軸とした実践から
～どのように学ぶかを追究していった実践事例～

生活単元学習「鹿島探検をしよう」等 小学部 青木梨紗教諭 加藤良一教諭

学習評価に向き合っていく中で、本当に“できた”と評価していいのかわ。

日々の学習評価の実践！



思考する



子どもの学び

各教科の見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成できているか。どの見方・考え方で向き合っているか。

自然な流れの中で見方・考え方のスイッチを入れることができる“単元構成（学びの回路）”がポイントとなる。単元内、授業内の各教科等間のつながり、配列を考えて、子どもの学びを自然に展開できるようにしていく。どのように学ぶかを追究！

カリマネ！

研究成果を共有！

第3章

3 教育課程編成

次年度に向けたカリキュラム・マネジメント

単元案、単元研究会を通して見えてきた改善点として、教科等横断的な資質・能力の明確化があげられる。さらに、明確化した資質・能力を実践につなげていくために、年間指導計画の改善、教科等横断的な視点での教育内容の組み立てに必要な単元配列表のなどの取組みについて、現在進行中であるが、その一部を紹介していく。

○教科等横断的な視点に立った資質・能力と年間指導計画

教科等横断的な視点に立った資質・能力と年間指導計画

単元研究会の中で、子どもの学びを見取り、目標に準拠した学習評価を行なっている際に、何度か、教科の目標を超えて、共通して出てくる大事な子どもの姿の話になった。また、各教科の関連を図る中で、各教科の学びを使っている時に、教科等横断的な視点に立った資質・能力について実感するような場面を感じた授業者もいた。次年度に向けて、取り組む必要性が出てきた。

教科等横断的な視点に立った資質・能力とは

学習指導要領の文言を読み取る！

学習指導要領総則編解説（小学部・中学部）には以下のように記載してある。

資質・能力
学習の基盤となる

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力

(1) 各学校においては、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

「ここに挙げられた資質・能力の育成以外にも、各学校においては児童生徒の実態を踏まえ、学習の基盤づくりに向けて課題となる資質・能力は何かを明確にし、カリキュラム・マネジメントの中でその育成が図られるように努めていくことが求められる。」としている。

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

(2) 各学校においては、児童又は生徒や学校、地域の実態並びに児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

各学校においては、児童生徒や学校、地域の実態並びに児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮して学校の特色を生かした目標や指導の重点を計画し、教育課程を編成・実施していくことが求められる。

私たちの学校は、果たして、明確だったのか？



議論の出發は、
いつも単元研究会！

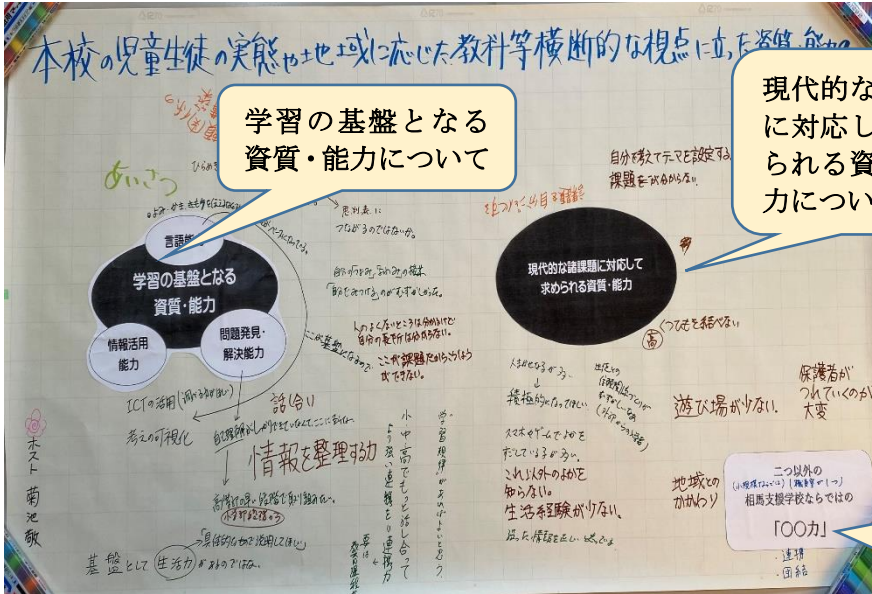
カリマネ！

単元研究会の「単元構想」のブレインストーミングで、「～な力が必要だよね。」と教科等の指導目標とは、別な力の存在、その必要性に気付く。」教科等横断的な視点に立った資質・能力について、教員同士の話し合いの中で、言及、探求し始めた。

第1回教育課程全体協議会にて

本校における教科等横断的な視点に立った資質・能力

教育課程全体協議会にて、7つのグループに分け、ワールド・カフェ方式にて、創造的にアイデアを出し合い、整理していく方法をとった。



自由に、大切に、思い出し合い、共有し合います!!



上記の資質・能力以外に、相馬支援学校ならではの力



全教職員で、本校の実態や地域等を考慮してアイデアを出し合い、教科等の枠組みを越えた「大切にしたい視点」がたくさん出された。教育課程の教科等横断的な視点に立った資質・能力に明記し、全教職員で教育活動の中で、意図的に育成を目指すように位置づけた。

情報を整理・全職員で修正し、学部毎に段階を踏んで明確化!

<p>言語能力</p> <p>11 12 13</p> <p>14 15 16</p> <p>17 18 19</p> <p>20 21 22</p> <p>23 24 25</p> <p>26 27 28</p> <p>29 30 31</p> <p>32 33 34</p> <p>35 36 37</p> <p>38 39 40</p> <p>41 42 43</p> <p>44 45 46</p> <p>47 48 49</p> <p>50 51 52</p> <p>53 54 55</p> <p>56 57 58</p> <p>59 60 61</p> <p>62 63 64</p> <p>65 66 67</p> <p>68 69 70</p> <p>71 72 73</p> <p>74 75 76</p> <p>77 78 79</p> <p>80 81 82</p> <p>83 84 85</p> <p>86 87 88</p> <p>89 90 91</p> <p>92 93 94</p> <p>95 96 97</p> <p>98 99 100</p>	<p>情報活用能力</p> <p>11 12 13</p> <p>14 15 16</p> <p>17 18 19</p> <p>20 21 22</p> <p>23 24 25</p> <p>26 27 28</p> <p>29 30 31</p> <p>32 33 34</p> <p>35 36 37</p> <p>38 39 40</p> <p>41 42 43</p> <p>44 45 46</p> <p>47 48 49</p> <p>50 51 52</p> <p>53 54 55</p> <p>56 57 58</p> <p>59 60 61</p> <p>62 63 64</p> <p>65 66 67</p> <p>68 69 70</p> <p>71 72 73</p> <p>74 75 76</p> <p>77 78 79</p> <p>80 81 82</p> <p>83 84 85</p> <p>86 87 88</p> <p>89 90 91</p> <p>92 93 94</p> <p>95 96 97</p> <p>98 99 100</p>	<p>問題発見・解決能力</p> <p>11 12 13</p> <p>14 15 16</p> <p>17 18 19</p> <p>20 21 22</p> <p>23 24 25</p> <p>26 27 28</p> <p>29 30 31</p> <p>32 33 34</p> <p>35 36 37</p> <p>38 39 40</p> <p>41 42 43</p> <p>44 45 46</p> <p>47 48 49</p> <p>50 51 52</p> <p>53 54 55</p> <p>56 57 58</p> <p>59 60 61</p> <p>62 63 64</p> <p>65 66 67</p> <p>68 69 70</p> <p>71 72 73</p> <p>74 75 76</p> <p>77 78 79</p> <p>80 81 82</p> <p>83 84 85</p> <p>86 87 88</p> <p>89 90 91</p> <p>92 93 94</p> <p>95 96 97</p> <p>98 99 100</p>	<p>情報と整理力</p> <p>11 12 13</p> <p>14 15 16</p> <p>17 18 19</p> <p>20 21 22</p> <p>23 24 25</p> <p>26 27 28</p> <p>29 30 31</p> <p>32 33 34</p> <p>35 36 37</p> <p>38 39 40</p> <p>41 42 43</p> <p>44 45 46</p> <p>47 48 49</p> <p>50 51 52</p> <p>53 54 55</p> <p>56 57 58</p> <p>59 60 61</p> <p>62 63 64</p> <p>65 66 67</p> <p>68 69 70</p> <p>71 72 73</p> <p>74 75 76</p> <p>77 78 79</p> <p>80 81 82</p> <p>83 84 85</p> <p>86 87 88</p> <p>89 90 91</p> <p>92 93 94</p> <p>95 96 97</p> <p>98 99 100</p>
---	---	--	---

「○○って大切だね」をしつかりと教育課程で明確化!!

カリマネ!

一部紹介

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、相馬支援独自の力

【現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力（相馬支援学校の地域・児童生徒の実態から）】

- 地域で起こる災害等への緊急時に対応する力の育成
- 地域と連携した「生活力」や「地域力」の育成
- 感染症対策、肥満、運動不足等の自身の健康・安全に関する力の育成

【相馬支援学校ならではの力】

- 自己理解・自己実現力の育成

児童生徒自身の学習上又は生活上の課題に対して、「自立活動」「職業（職業・家庭）」「特別活動」を要として、自己の理解を深め、自身の長所を知り生かすとともに、自身の課題を理解し、その改善や解決に向けて行動できる力を育成する。

話し合いの中から、大切にしたい力の共通項が見えてきた。今後は、教育課程全体を見渡して育んでいくために、学習指導要領に示されている「教科等横断的な視点からの指導のねらいの具体化や、教科等間の指導の関連付け」が重要になってくる。つまり、単元配列表などを用いた年間指導計画によるコントロールが必要となってくる。

あとは、いつ育むのか？
その視点でラスト！

年間指導計画

12年間の学びを見通した年間指導計画、単元配列表

今年5月にコロナ感染症等の影響により単元配列の見直しを行なったが、それ以後にも単元案の単元構想にある「他教科とのつながり」を考えるなどしてきた授業者は、単元配列表について、必要性を感じ始めていた。今回、教科等横断的な視点に立った資質・能力がある程度明確になり、どの教科を要するのか、どの単元間の関連の中で資質・能力へとつなげていくのか、整理していく必要があった。

教科等横断的な視点による年間計画 ※先印は関連して学習を組み立てている項目（注：だっだっのみ配列）

指導単元の領域	5月 下旬～	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	「物語を味わう」 「電話を利用しよう」	「手紙を渡そう」 「文の書き」	「文の書き」 「読書」		「インタビュー をしよう」	「新聞を作ろう」	「新聞」	「本に親しもう」	「わたしの物語を 書こう」	「表現力を高めよう」	「あいさつや会話 する力を高めよう」
算数	「数と計算」 ・大きい数、単位、比較等	「データ活用」 ・割合、グラフ読み取り			「データ活用」 ・割合、グラフ読み取り	「図形」 図形の性質と生活	「数と計算」 加法や減法、乗法等と生活		「データ活用」 ・平均		「1年間のまとめ」
社会	「我が国の地理・気象と地域の暮らし」 ・東北地方、関東地方、四国地方、中部地方				「産業と生活」 ・食料生産、輸送方法、郵便	「公共施設の利用」 ・公共施設の役割	「地域の働き」 ・世界と日本の役割	「食の調理学習」 ・食生活の働き、献立	「食の調理学習」 ・食生活の働き、献立	「職業と生活の相関と文化」 ・公共職業安定所、福祉事務所、職業体験センター	
職業	「職業生活について」 ・興味のある職業、労働時間、生活リズム、職業の意識 ・興味を通して・・・夢をプロジェクトと繋ぐ				「職業生活の活用」 ・電話・FAX・ソフト ・インターネット	「職業生活等における資質・能力」 ・資質に 掲げて！	「職業生活の活用」 ・電話・FAX・ソフト ・インターネット	「職業生活の活用」 ・電話・FAX・ソフト ・インターネット	「職業生活の活用」 ・電話・FAX・ソフト ・インターネット	「職業生活の活用」 ・電話・FAX・ソフト ・インターネット	「自己理解を 深めよう」
道	「学習活動と関係の中で一歩を踏み出し、興味や関心を持ち、協力して実践しよう」 ・身体表現の意識と、表現、発表、発表・鑑賞活動 ・表現の意識、1学期の反省等				「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)	「鑑賞」(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ)
総合	「自分の心でいる場所について調べよう・比較しよう」 ・福島県 → 高知県、徳島県、静岡県 → 東京都					「テーマを決めて、探求しよう、発表しよう」 ・修学旅行前・修学旅行中のテーマ			「選挙について調べよう」	「卒業後の生活について考えよう」	「まとめ」
芸術	「音楽の楽しみ方」 「音楽の楽しみ方」										
生活	「夢を叶えるプロジェクト」 ・企画・立案 発表プロジェクト										
音楽	「校歌を歌おう」 「校歌を歌おう」										
保健体育	「図形運動」	「陸上競技」	「ゴール型 スポーツ」								
美術	「春の景色を 描こう」	「絵を描こう」									
家庭	「安全な生活をしよう」										

つまり、最後の仕上げ、
年間指導計画や
単元配列表に落とし込む！

12年間を見通した学びから

各教科を学び、習得した児童生徒が、段階を積み重ね、高等部2段階までの学びを履修できるようなシステムについては課題があることが見えてきた。つまり、活動ベースとした年間指導計画では、段階における履修が漏れる分野等があり、それが次の段階の学びを困難にする場合がある。学習指導要領にある内容ベースでの整理が必要なが分かってきた。そこで、研修部が中心となり、学習指導要領各教科の内容について、小学部から高等部まで、12年間で高等部2段階まで学べる見通しを作成した。

各教科毎に、12年間で内容を網羅できるように配列!

習得状況により、高等部2段階まで学べる生徒が安心して学びを積み重ねられる見通しを作った。



高等部 3年生 社会 年間計画
【社会】 通常の学級
【2段階】

<p>オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史 (ア) 我が国の国土の様子と国民生活に関する学習活動 ① 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。 ② 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。</p>	<p>「わたしたちの国土」*小5 ①世界の中の国土 ②国土の地形の特色 ③低い土地、高い土地の暮らし ④国土の気候の特色 ⑤暖かい土地、寒い土地の暮らし *③④⑤については、高1段階で済み</p>
<p>オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史 (イ) 我が国の歴史上の主な事象に関する学習活動 ① 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 ② 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。</p>	<p>「日本の歴史」 *小6 知については、大まか 思については、ほぼ同一。しかし、通 で扱うことがないため、修学旅行 と、学習旅行で使える。</p>
<p>カ 外国の様子 (ア) グローバル化する世界と日本の役割に関する学習活動 ① 我が国は、平和な世界の実現のために国際連合の一員として重要な役割を果たしたり、諸外国の発展のために援助や協力を行ったりしていることを理解すること。 ② 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力などに着目して、国際社会において我が国が果たしている役割を考え、表現すること。</p>	<p>「世界の中の日本」*小6 ①日本とつながりの深い国々 ②世界の未来と日本の役割 *「日本とのつながりの深い国々」に いては、高1段階で済み、②は、国際 連合の働き等は、取り扱わない。</p>

各学部、学年毎に、特別支援教育センターの学びの履歴を参考に、学ぶ内容を抜き出し、どのような指導内容なのか、指導要領各教科解説の内容や中学部、高等部の場合は、小学校の指導要領の内容とも整合性を確認し、同様の文言の場合は、参考となる教科書の単元を明記して指導しやすくした。



まずは、通常の高等部2段階まで学ぶことができる年計を作成中。
あとは、習得状況により、本人に合わせた段階で指導する!



最大限に力を伸ばすことができるカリキュラムを構築するために!

カリママネ!

第4章

結果・考察

“単元研究会”で何が変わったのか 資質・能力は？カリマネは？

単元研究会によって、何が変わったのか、研究のゴールである本校の資質・能力が育まれたのか、そのためのカリキュラム・マネジメントの推進が図られたのか、校内アンケート、学校評価アンケートをもとに客観的に捉えていきたい。

○研究の結果と考察：何が変わってきたのか

○2年次に向けた取り組みの重点～より、質を高める～

○本研究のゴールに向かって



研究の結果と考察：何が変わってきたのか

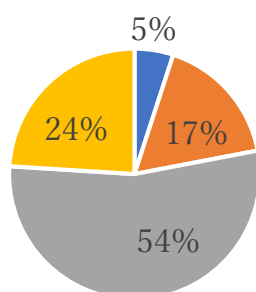
今年度は、単元案の開発・実施、単元研究会での子どもの学びをよく見取り、学び方（単元構造）を考えて、日々の授業・単元での実践を行ってきた。その結果、何が変わってきたのか、途中経過の変容等は、第3章「研究の実際」の部分で触れてきた。ここでは、校内アンケート、学校評価アンケート等をもとに、客観的な視点から、成果及び課題点を考察していく。

各種アンケートより

充実した単元研究から、自然とカリマネ推進の一人になっている！？

日々の単元

- これまで、日々の授業において、どの程度、単元案で単元をコントロールしていましたか。
*自分が作成したものに限りです。



- ア 作成していない・無回答
- イ 1つの単元
- ウ 2～4つの単元
- エ 4つ以上の単元



日々の単元について、しっかりと単元案を軸にコントロールして取り組んでいる人が増加中！！

研修前のアンケートでは、56%が単元案等を作成せずに、頭の中で行っていた実情から、単元案を軸に、単元における押さえるべきポイント（第3章参考）を言語化して思考するプロセスを行ない、日々の授業・単元の充実から資質・能力の向上を図っている成果が見られてきた。実際に、取り組みを継続している先生方からは、

「現在の単元案の形になったことで、授業を考えやすくなり、自分でも整理しやすくなった。」

「文字に残す、書き出すことで考えが整理され、より効果的な指導ができていくように思います。」

「単元の見通しを持つことができるため、教材等の準備や授業の展開がスムーズに行えた。」

「単元案を作ることで、その授業の中でのねらいが明確になり、それに伴い教材も生徒に合ったものと考えて作成することを意識できた。今後も計画的に単元案を作成して進めていきたい。」

「経験者研修の研究授業も単元案をもとに作成しているので取り組みやすかった。」

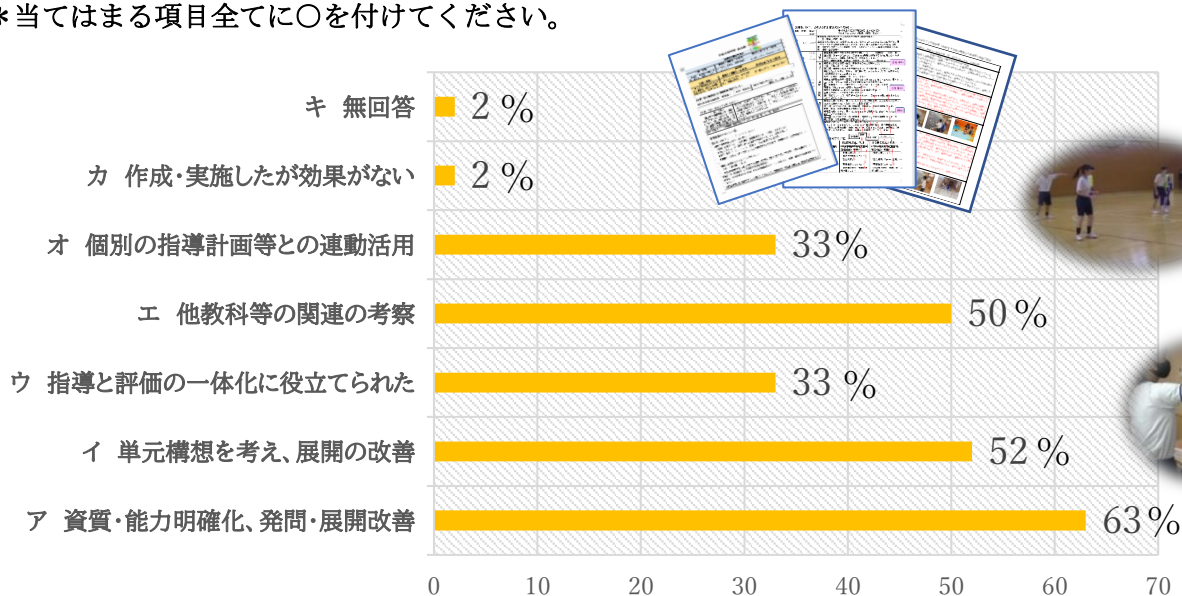
などの感想が聞かれた。

また、単元案等の実践を通して、単元等への意識がどう変わったのか、次のアンケート結果から客観的に見ていきたい。

単元案の効果

○ 単元案の作成・実施して、作成・実施しないで単元を実施するのと、どう変わりましたか。

*当てはまる項目全てに○を付けてください。



単元案を軸として取り組むことで、育みたい資質・能力を明確にした授業はもちろんのこと、単元のまとまりを意識して、授業改善が図られていることが分かる。また、単元構想の中に、他教科等の関連を考える部分があり、その点を授業づくりで意識していることが伺える。

実際に、先生方からは、

「単元案を評価することで、単元の中で「この活動をもっと取り入れればよかった」など授業だけでなく単元の流れを考えるようになった。授業改善に活用している。」

「教科等横断的な視点で授業を組み立てることができるよう、各教科、合わせた教科等の単元案作成をさらに行っていく必要があると痛感した。」

「教科を合わせた指導形態では、「何の教科を合わせているのか」という意識を持つことができるようになってきた。」

「単元案にそのまま評価を入れることができるため、すぐに振り返ること（単元ごとに）ができる。」

「目標、ねらいを安易に落とさずに、生徒たちが思考を働かせられるように、どうすればいいのかを模索したいです。」

「指導と評価の一体化とあるが、評価をしてこなかったわけではないが、もう少し分かりやすい評価の仕方を考えていかなければいけないと感じた。」

などの感想があり、教員それぞれが子ども達の資質・能力を育むために取り組み、自分で学びを深めていく様子が見られた。また、単元案による実践を日々行なっている教員に共通して見えてくるのは、資質・能力の明確化から実践を通して、どのように子どもが学ぶか、教科の見方・考え方について、深い実感のもとに、考え抜き、より教員としての資質向上が図られる傾向が見られた。



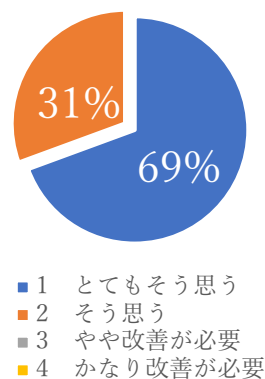
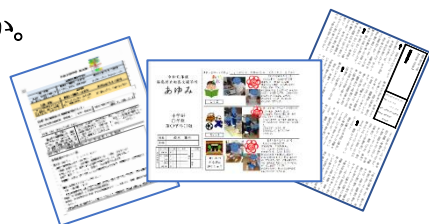
やれば、やるほど、力になる!!

開かれた教育課程

学校評価アンケートより、これらの取り組みが、着実に保護者に「子どもの学びの姿」を説明する効果としてつながっていることを示している。

保護者向け学校評価のアンケートより

- 教職員は、お子さんが学んでいる「単元」についての目標、単元で身に付けさせたい力、学習評価について授業参観ガイドや通知表、個別の指導計画等で伝えていますか。



今後の課題として

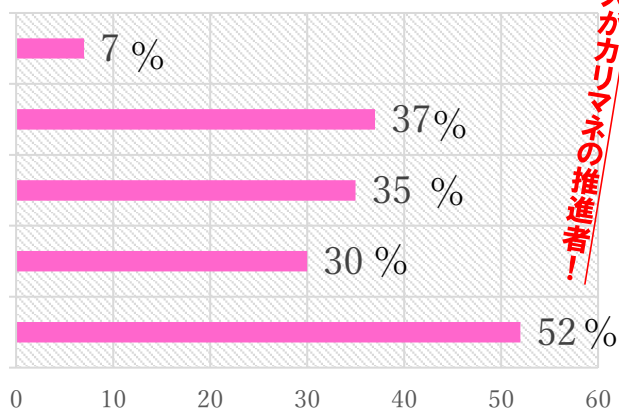
十分に成果が見られてきているが、実際の教員の仕事として、授業以外にも業務を抱える状況があることから、単元案等に整理して考えたくてもできず、その場、その場での展開に陥ってしまうことがあったのも事実である。平成31年1月「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」の中で、**教員のすべき仕事として「学習指導要領を踏まえた学習指導」が一番に挙げられている。**だからこそ、学習指導要領の理解を一層深め、本校の資質・能力の育成とその実現に向けて取り組むべきことは確実に実施しながらも、不要な会議・文書・業務がないか、本質的な部分を教職員自身が捉える目を持ち、**資質・能力の実現に向けて業務のシンプル化を図りながら、単元案等を軸とした授業実践の思考する時間、及び準備する時間を確保できるように、教務等と連携しながら、働きやすい環境を整えていく必要がある。**

一人一人の単元を軸とした取り組みがカリマネの推進へ

○カリキュラム・マネジメントについて、自身の取り組みを教えてください。

*当てはまる項目全てに○つけてください。

- オ 特に取り組んでない
- エ 単元ごとの個別の観点別学習状況の評価を積み重ね、授業実践の改善を図ってきた
- ウ 校内や地域の人材・物を活用し、実践・改善を図ってきた。
- イ 教育課程の実施状況を考え、校内の取り組みで調整・改善を図った
- ア 教科等横断的な視点に立って、単元の内容の配列等を考えて、実践してきた



一人一人がカリマネの推進者！

カリキュラム・マネジメントの4つの側面をアンケート項目にしている。アの項目より、多くの教員が教科等横断的な視点に立って、単元の内容の配列等を考えて、実践に取り組んできたこと、また、エの項目より単元案の学習評価から、何が身についたのか明確にし、授業改善を図っていることが分かる。

これらが、本年度の教育課程の実施状況として、次年度の教育課程編成の改善へつながり、中学部の社会、高等部理科、情報の通年、外国語の通年（隔週）、重複障がい学級における教科別の指導の充実（国語、算数（数学））などのカリキュラム・マネジメントの推進に向かっている。

実際に先生方も

- 研修時間を活用することで、担当者間での計画等を考える時間を設けることができた。
- 単元を振り返り、授業者同士で課題を共有できた。（改善点や単元配列など）
- 高等部における（教科担当制）教科等横断的な視点を教育課程により具体的に反映していくためには、担当間の密なコミュニケーションが必要だと感じた（学びの履歴の活用も含めて）
- 教科等横断的な視点をもって授業を進めていくことがまだできていないので、今後改善していきたいと思います。
- 単元のゴールを設定したことで、そのゴールに向けた授業改善を行うことができ、迷いが少なくなった。
- 単元案の作成→共有→データの活用→多忙化解消→評価の充実・教材・教具の授業づくりの充実
- 年間指導計画の見直しと作成→履修という考え、習得し活用する力の充実 など

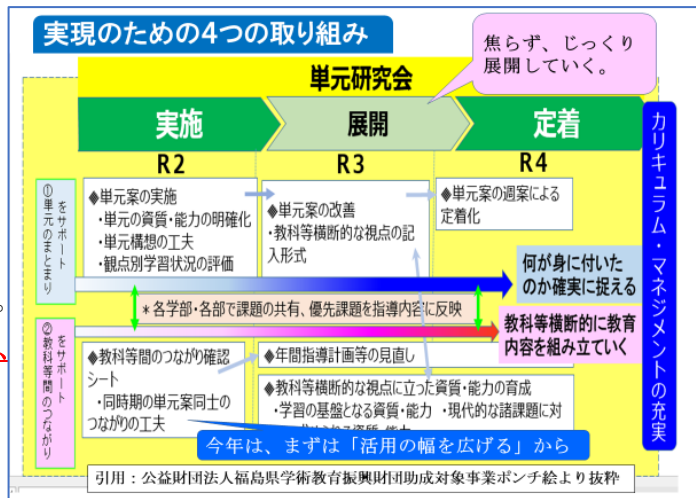
などの感想があり、次年度に向けて、さらに必要なカリキュラム・マネジメントの部分に自分たちで気づき、その取り組みの必要性を感じている記述があり、2年次の推進の足掛かりになると感じる。



2年次に向けた取り組みの重点～より、質を高める～

研究当初計画した3年次計画の通りに、単元案を軸に行なっている取り組みから、ある一定の成果が見られた。教科等間のつながりを意識した単元も実践し続けることで、年間指導計画の在り方や教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての本校の課題が見られ、第3章で示しているように取り組みを進めてきた。

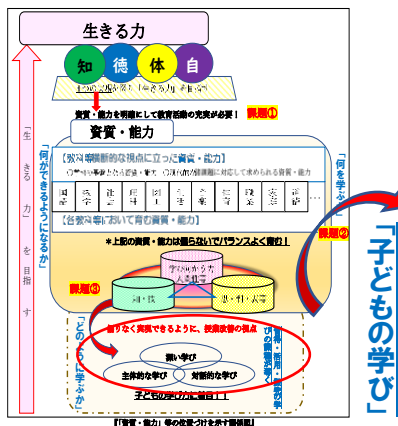
次年度は、今年度の取り組みを継続しながら、以下の内容について、さらに深化していき、本校の育成を目指す資質・能力の充実を図ってきたいと考える。



「第2章「本研究の3年次計画」より」

取組重点①

子どもの学びを“つなぐ”“つなげる”“つながる”授業・単元へ



「第1章で「資質・能力」の位置づけより」

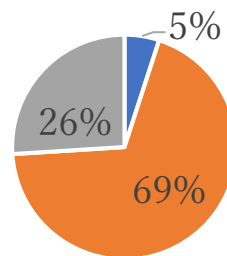
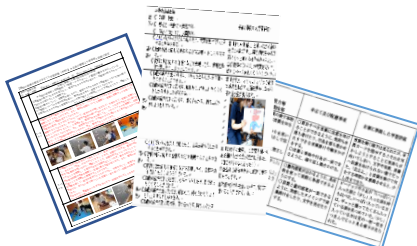
単元案による実践を継続的に取り組んできた教員の中には、子どもの学びについて、「どのように学ぶか」という視点において、深い実感のもとに、授業者としてもっと追究したいという思いが多く見られてきている。子どもの学びを考え、子どもが知識や技能を広げていく本質的な部分について、単元案の主體的・対話的で深い学び、習得・活用・探究、単元間のつながり等の関連において、研修部として情報提供しながら、研究を深化したいと考える。授業者の状況に応じて、選択、もしくは学びを自身で深めることができるような校内体制を取っていく。

取組重点②

子どもの学びを見取るために、学習評価の充実へ

単元による学習評価の現状について、以下のようなアンケート結果がある。

○単元案の実施後、児童生徒の観点別学習状況の評価を行いましたか。



- ア 行ってない・その他
- イ 単元案に記入はしていないが評価・改善している
- ウ 単元案に記入して評価・改善に活用している

このデータが示すように、学習評価に関しては、単元案に記入はしていないが、頭の中で評価・改善していることが大方である。その一方、単元案に学習評価を記入しながら、継続して取り組んでいる授業者からは、「目標に準拠した学習評価を行なっていく時に、言語化して向き合うことで、その難しさや“評価しているつもり”の壁にぶち当たり、3つの資質・能力に応じた子どもの学びを見取れなかったり、目標に対して指導場面の意識が不十分であったりすることに気づくなど、指導と評価の一体化をより実感し、授業改善につなげていくことができた。」との話があった。また、学習評価を蓄積していくことで、通知表、個別の指導計画等の評価との連動が図られ、これまでよりも大幅に時間が短縮、労力が減ったという話が実践者から多く聞かれた。

今後は、「学習評価の時間」等を設定しながら、日々の業務の中で、取り組みを推進し、「何が身についたのか」を見取り、子どもの学びを踏まえた授業改善につながるようにしていきたい。

取組重点③ 年間指導計画の実践、改善、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

本年度に行なっている12年間を見通した年間指導計画、教科等横断的な視点に立った資質・能力について、どの教科を要としていつの時期に育むのか、どの教科との関連を図りながら育むのか、その実践を図りながら、改善・見直しを行ない、さらに精度を上げていく必要がある。その際、軸となるのは、単元案であり、単元研究会である。教科等横断的な視点に立った資質・能力について、どのように授業者が意識し、実践を図り、評価していくのか、その点も踏まえて研究していくことになる。

これらの取組重点①～③を意識しながら、次年度も1つ1つ取り組んでいきたい。

本研究のゴールに向かって



本研究のゴールは、シンプルである。
「本校の育成を目指す資質・能力」
 の達成である。



「第1章「本校の育成を目指す資質・能力」より

この実現に向けて、本校の特色を踏まえながら、学習指導要領の基準性を確実に押さえるために、この研究は進んでいる。

2年次においても、チャレンジすべきこと、実践を通して見える課題、様々な状況に出会うことが予想される。生徒の学校評価アンケートに、「やっていないことを広げたい。」と学びへ意欲的に向かう記述があった。その思いに応えるべく、単元案、単元研究会から得た確かな実践知から、子どもの学びを最大限に伸ばすことができるように、「資質・能力を育む単元研究会からのカリキュラム・マネジメントの推進」を図りながら、教育活動の質の向上を目指していきたい。

子どもたちが学びによって得た知識がつながっていく楽しさ、考えていくことの面白さ等が実感できるように、私たち教員も日々学び続け、取り組んでいきたいと考える。

参考文献

- 文部科学省（2018）「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成 29 年 4 月告示」海文堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校学習指導要領各教科等編（小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」開隆堂出版株式会社
- 中央教育審議会（2016）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
- 中央教育審議会（2011）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
- 東京都立光明学園（2018・2019）「全国公開研究会資料」
- 東京都立光明学園（2018）『授業者支援会議を活用した「授業改善」の勧め』
- 福島県教育委員会（2019）「平成 31 年度学校教育指導の重点」
- 福島県教育委員会（2019 一部改訂）「頑張る学校応援プラン」
- 大分県教育委員会 Web サイト『『育成を目指す資質・能力』の三つの柱を踏まえて行う教育目標の設定・見直し』について
- 福島県特別支援教育センター（2018）「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック」
- 高木展郎（2016）『「これからの時代に求められる資質・能力の育成」とは-アクティブな学びを通して-』東洋館出版社
- 高木展郎（2015）「変わる学力、変える授業。21 世紀を生き抜く力とは」三省堂印刷
- 高木展郎（2019）「評価が変わる、授業を変える 資質・能力を育てるカリキュラム・マネジメントとアセスメントとしての評価」三省堂印刷
- 奈須正裕（2018）『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社
- 浅田すぐる（2016）『トヨタで学んだ「紙 1 枚！」にまとめる技術』三省堂印刷
- 新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム（2019）「相馬支援学校の教育課程の抜本的見直しに係る改善及び必要な方策等について（答申）」
- 中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）【概要】

編集後記

本研究集録は、令和元年度から継続して取り組んできた相馬支援学校の取り組みをまとめたものです。

昨年度、新校舎移転や創立50周年などの節目を迎えるにあたり、本校校長より「枠を決めないで、夢を語り、夢のあるカリキュラムを作ってみてください。挑戦してください。」との話がありました。その後、「新しいカリキュラムを創造するプロジェクトチーム」が立ち上がり、そこから様々な連携を広げながら、教育課程や授業研究の改善を図り、今年度の取り組みへとつなげることができました。

今年度は、本校の課題点について3年次計画を立案し、その一年次として取り組んできました。取り組みの中で、本校の先生方が、単元研究会で楽しみながらアイデアを出し合い、議論したり、教科等横断的な視点に立った資質・能力を真剣に話し合ったりする姿がたくさん見られました。また、悉皆研修者の単元研究会には、任意でありながら数多くの参加者が集まり、一人一人の先生方の学ぶ意欲が周囲の先生方へ広がっていくなど、組織風土の変化が見られてきたように思います。このような光景は、まさにキャリア教育の目指す姿として示されている「学び続ける姿」であり、本校の先生方には学び続ける先生がたくさんいると実感しております。

これらの取り組みを陰で支えていた研修部員の先生方は、様々な問題に直面していました。例えば、「指導要領上押さえるべき視点」と「従前の研修における先生方の多忙感」という2点のバランスです。本校研修部員がこの問題を解決すべく、創造し、議論し、「単元案」「単元研究会」を開発しました。使いやすさ、利便性等の授業者ニーズ（消費者ニーズ）を捉え、今では学校全体で日常的に取り組まれるようになってきました。また、子ども達が学ぶ12年間の見通しについて、教育課程上の課題に気づいた時、「誰かがやってくれる」ではなく、「自分たちがやるしかない！」と、自ら研修部員が通称“V作戦（詳しくは第3章3を御覧ください）”に取り組み、その後の教育課程検討委員会の年間指導計画、単元配列表の取り組みへとつなげることができました。改めて、志をもって、学校の取り組みを支えていたメンバーへは、感謝の言葉しかありません。私自身も、このようなチームの一員であったことは嬉しく思います。

今後も、一人一人が互いに学び合い、それぞれの得意分野を生かしながら、一人ではできないことを達成していくチームとして、全教職員で協力し、相馬支援学校の取り組みを地道に進めていきたいと思えます。

最後に、本校の研究にご協力いただきました、田中裕一様、丹羽登様、小野寺哲夫様、小暮創史様に改めて感謝申し上げます。併せて本校の研究への助成をいただきました公益財団法人福島県学術教育振興財団様に感謝申し上げます。今後ともご指導の程、よろしく申し上げます。

（文責：富村和哉）

令和3年2月10日 相馬支援学校研修部（◎主任 ○副主任）

小学部 ○根本麻美、立石茉由子、大和田布佐子

中学部 荒井郁絵、川俣つぐみ

高等部 岡千愛、飯田里佳子、室井郷司、◎富村和哉



Soma special education school

自分の学びが、子どもの学びへ



福島県立相馬支援学校

〒979-2333 福島県南相馬市鹿島区寺内字鷺内79
電話:0244-67-1515 FAX:0244-46-3915

E-mail:soma-sh@fcs.ed.jp

